

# 日本Tweed矯正歯科研究会30周年記念誌

30<sup>th</sup> Anniversary Commemorative Magazine of  
Japanese Tweed Orthodontic Association



## 第1章

### 日本Tweed矯正歯科研究会 30年の歩み

30 years of history of  
Japanese Tweed Orthodontic Association

## 第2章

### クロンツ先生への追悼文集

Memorial collection for Dr. Klontz

## 第1章 日本Tweed矯正歯科研究会 30年の歩み・・・30年を回想して

日本Tweed矯正歯科研究会会長 清水典佳

日本Tweed矯正歯科研究会(以下Tweed研究会)も皆様のご協力のおかげで、発足30周年を迎えることができました。そこで、その成り立ちと経緯について回想してみました。

初代会長であり、現在名誉会長である中久木正俊先生が、当時アメリカ各地の矯正歯科専門医の診療体系を見学しながら1973年にアリゾナ州TucsonのTweed study courseを受講し、コースのプログラム内容、その理念や教育法に感動したとお聞きしました。矯正歯科治療学の情報が少なかった日本で矯正歯科治療を発展させるためには、優秀な矯正歯科医を育成する必要があり、アメリカの矯正歯科医がほぼ全員受講しているTweed study courseの理念を取り入れることが最善と考えたようです。そこで同調する矯正歯科医を集め1994年にTweed研究会を発足させ初代会長に就任なされ、翌年にはTweed study courseのコースコーディネーターであったクロンツ先生を招聘し、発足記念講演会を開催いたしました。その後、中久木会長がクロンツ先生に日本におけるTweed理念の発展とTweed study course受講の準備コースの必要性について説明し御理解をいただくことができ、1997年に初めてクロンツ先生を日本にお招きして準備コースとしてのPre-Tucsonコースを開催いたしました。それ以来クロンツ先生には毎年来日していただき、近年ではベーデン先生にもおいでいただき、お二人でPre-Tucsonコースを開催していただいております。

当時TucsonのTweed study courseは敷居の高いコースであったため、プログラム内容も日本であまり周知されておらず、コースに参加した日本人は英語の壁と実習内容に追われてプログラムの骨子を十分吸収できずに帰国せざるを得ない状況でした。そのためPre-Tucsonコースで前準備を行うことでTweed study courseの内容を十分吸収し快適な受講を可能にすると共に、日本における矯正歯科治療学の発展に寄与できるであろうとの考えから、企画したものでした。このように中久木名誉会長の将来を予見した豊かな発想と多大なるご尽力の下でTweed研究会とPre-Tucsonコースの活動が行われてきました。

大変残念なことに、クロンツ先生が体調を崩され来日できなくなってしまい落胆しておりましたが、現Tweed study courseのディレクターであるベーデン先生にお願いし来日が叶いました。そこで2023年のPre-Tucsonコースでは、将来を見据えてベーデン先生に頼ることなく我々日本人による3日間のコース全容をベーデン先生に精査していただき、ご意見をいただきました。その結果、「君たちのPre-Tucsonコースはとてもよくオルガナイズされており、十分君たちだけで開催できるため、もう私は必要ない」とのありがたいご評価をいただきました。Pre-Tucsonコースは近年準備コースとしてのみならず、エッジワイズ治療の基本を学ぶコースとして刷新しており、より良い治療結果を求める多くの矯正歯科医が受講し易いよう配慮し、コマーシャルイズムを排除したコースとして進めております。

現在、Tweed研究会とPre-Tucsonコースの将来進むべき方向性について、活発な議論がなされております。今のところ私はエッジワイズ治療法に勝る治療法はないと考えておりますので、本研究会はエッジワイズ治療法の基本を学ぶ環境を提供すると共に、一層良好な治療結果を導き出せるような治療法を開発、発展させてゆきたいと考えております。



2019年10月20日 第13回総会学術大会 懇親会場 (クロンツ先生最後の来日)

## 日本Tweed矯正歯科研究会について

日本Tweed矯正歯科研究会(以下 当会)はアメリカ・アリゾナ州ツーソンにあるDr. Charles H. Tweed国際歯科矯正研究財団(以下 TWEED財団)と連携し、矯正治療テクニックの基礎であるスタンダードエッジワイズ法の基礎であるTweed法(Tweed-Merrifield法)をベースとした矯正治療技術の発展とそのテクニックを継承する実力ある矯正歯科医の育成に努めています。

その活動は、TWEED財団と同様、Dr. Tweedの気高い善意の志を引き継いだ理事の熱い思いが込められており、一切の商業主義を排除しています。

初代会長である中久木正俊先生が、日本の矯正歯科技術発展の為、私財を投じ1997年にPre-Tucsonコースを開催したことに始まり、今日に至るまで年1回開催しております。

Pre-Tucsonコースとはアメリカからインストラクターを招待して行われる「アメリカTweed 財団開催 Tweed Studyコースの準備講習会」としての位置づけで、コース受講でのスキルアップに加え、Tweed Studyコースの要点を事前に受講、実習することで後のTweed Studyコース受講時の理解をより深めていただくことを目的とした日本国内で開催される矯正歯科技術講習会です。

## Dr. Charles H. Tweed国際歯科矯正研究財団について

アメリカ・アリゾナ州ツーソンに本部を置く世界で唯一、臨床実績を第一考え、商業主義を排除し、全て基金により運営されている矯正歯科研究機関です。

現代歯科矯正学の父と言われ、現代歯科矯正学の基礎を築いたDr.Charles H. Tweedの理論と実際を発展させたスタンダードエッジワイズ法の基礎であるTweed法(Tweed-Merrifield法)の研究を続けています。

TWEED財団では 毎年、春夏秋の3回、Tweed Studyコースを開催しています。現在まで80年に渡り120回以上開催され、その受講生は全世界から8,000名を越えています。

Tweed Studyコースの特徴は、他の講習に比べ7日間という十分な受講期間の間に、多くの症例を学び、十分な実習を行うこと、そしてその運営は企業からの援助等を受ける事なく、ドネーション(寄贈)を含めた善意によって成り立っていることです。

このようにTWEED財団は、私財を投じてスタンダードエッジワイズ法の基礎であるTweed法(Tweed-Merrifield法)の発展を願ったDr.Charles H. Tweedの気高い志を引き継ぎ、営利を目的としない矯正歯科研究機関です。

## 日本Tweed矯正歯科研究会の紹介

日本Tweed矯正歯科研究会会員数:274名 (2025年11月1日時点)  
(正会員:126名、準会員:145名、名誉会長:1名、名誉会員:1名、特別会員:1名)

### 活動目的

- 臨床実績を第一に商業主義を排除して正当且つ合理的な矯正治療の提供を目指す
- スタンダードエッジワイズ法の基礎であるTweed法(Tweed-Merrifield法)を基本にした、良好な治療結果を得るための矯正治療法の開発と発展
- 若手矯正歯科医のスキルアップのための教育支援
- スタンダードエッジワイズ法の基礎であるTweed法(Tweed-Merrifield法)を用いている国内、海外の矯正歯科医との交流

### 活動内容

- 総会学術大会の開催(2年に1回)
- Pre-Tucsonコースの開催(毎年)
- ケースプレゼンテーションの公開
- スタンダードエッジワイズ法の基礎であるTweed法(Tweed-Merrifield法)普及の  
為の広報活動(論文投稿など)
- Tweed Studyコース(アリゾナ州ツーソン)へのインストラクターの派遣
- TWEED財団のメンバー資格取得等の情報提供、支援
- Tweed Studyコースの情報提供
- Tweed Studyコースへの引率案内
- 矯正治療に関する情報提供

日本Tweed矯正歯科研究会30年の活動



1995年3月4日 東京フォーラム      1997年10月26日 総評会館      1997年 クロンツ先生歓迎会

- 1995/03/04 第1回総会学術大会 Herbert Klontz先生講演 東京フォーラム
- 1997/10/26 第2回総会学術大会 Herbert Klontz先生講演 総評会館
- 1999/03/14 第3回総会学術大会 John Bilodeau先生講演 東京フォーラム
- 2001/07/19 第4回総会学術大会 黒田敬之教授 納村晋吉教授講演 山のホテル(箱根)
- 2003/11/09 第5回総会学術大会 Herbert Klontz先生 河田俊嗣教授講演 総評会館
- 2005/07/18 第6回総会学術大会 川本達雄教授講演 都市センターホテル
- 2007/11/11 第7回総会学術大会 Herbert Klontz先生講演 東京グランドホテル
- 2009/11/29～30 第8回総会学術大会 清水典佳教授 本吉 満准教授 山のホテル(箱根)
- 2011/11/06 第9回総会学術大会 Herbert Klontz先生講演 都市センターホテル
- 2013/06/23 第10回総会学術大会 Herbert Klontz先生 & James L.Vaden先生  
清水典佳教授講演 連合会館
- 2015/10/25 第11回総会学術大会 Herbert Klontz先生 & James L.Vaden先生  
河合 悟先生講演 連合会館
- 2017/10/29 第12回総会学術大会 Herbert Klontz先生 & James L.Vaden先生講演  
連合会館
- 2019/10/20 第13回総会学術大会 Herbert Klontz先生 & James L.Vaden先生  
清水典佳教授講演 連合会館
- 2021/11/23 第14回総会学術大会 コロナ禍のためWeb配信にて開催
- 2023/11/12 第15回総会学術大会 James L.Vaden先生 稲毛滋自先生講演  
東京ガーデンパレスホテル
- 2025/11/09 第16回総会学術大会 出口 徹教授 東京ガーデンパレスホテル



1999年3月14日

2013年6月23日

2017年10月29日

2019年10月20日

## プレツーンコースの歩み



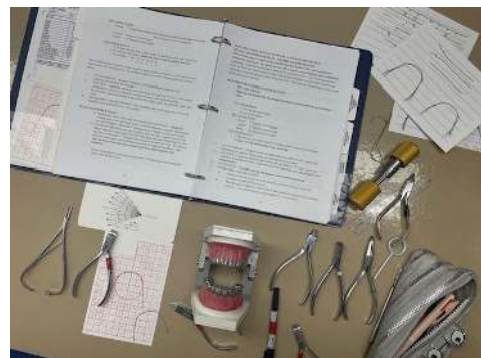
1997年10月27日 連合会館



1997年10月28日 コース懇親会場

第1回	1997/10/27~29	Herbert Klontz先生&日本人インストラクター
第2回	1998/11/16~18	Herbert Klontz先生&日本人インストラクター
第3回	1999/11/16~18	Herbert Klontz先生&日本人インストラクター
第4回	2000/11/6~8	Herbert Klontz先生&日本人インストラクター
第5回	2001/11/3~5	日本人インストラクター ※アメリカ同時多発テロの影響で来日できず
第6回	2002/11/3~5	Herbert Klontz先生&日本人インストラクター
第7回	2003/11/10~12	Herbert Klontz先生&日本人インストラクター
第8回	2004/10/25~27	Herbert Klontz先生&日本人インストラクター
第9回	2005/6/20~22	Herbert Klontz先生&日本人インストラクター
第10回	2006/6/11~13	Herbert Klontz先生&日本人インストラクター
第11回	2007/11/12~14	Herbert Klontz先生&日本人インストラクター
第12回	2008/11/3~5	Herbert Klontz先生&日本人インストラクター
第13回	2009/11/1~3	Herbert Klontz先生&日本人インストラクター
第14回	2010/11/8~10	Herbert Klontz先生&日本人インストラクター
第15回	2011/11/7~9	Herbert Klontz先生&日本人インストラクター
第16回	2012/11/4~6	Herbert Klontz先生&日本人インストラクター
第17回	2013/6/24~26	Herbert Klontz先生&日本人インストラクター
第18回	2014/11/9~11	Herbert Klontz先生&日本人インストラクター
第19回	2015/10/27~29	Herbert Klontz&James L.Vaden先生&日本人インストラクター
第20回	2016/11/13~15	Herbert Klontz先生&日本人インストラクター
第21回	2017/10/31~11/2	Herbert Klontz&James L.Vaden先生&日本人インストラクター
第22回	2018/11/18~20	Herbert Klontz先生&日本人インストラクター
第23回	2019/10/21~23	Herbert Klontz&James L.Vaden先生&日本人インストラクター
第24回	2022/11/21~23	日本人インストラクター
第25回	2023/11/13~15	James L.Vaden先生&日本人インストラクター
第26回	2024/11/11~13	日本人インストラクター
第27回	2025/11/10~12	日本人インストラクター

受講生合計 918名



## プレッソンコース受講者の年次推移

第1回	1997年	59	第15回	2011年	38
第2回	1998年	48	第16回	2012年	25
第3回	1999年	56	第17回	2013年	29
第4回	2000年	45	第18回	2014年	47
第5回	2001年	19	第19回	2015年	49
第6回	2002年	26	第20回	2016年	26
第7回	2003年	25	第21回	2017年	42
第8回	2004年	24	第22回	2018年	17
第9回	2005年	22	第23回	2019年	21
第10回	2006年	21	※コロナの影響で未開催		
第11回	2007年	39	第24回	2022年	40
第12回	2008年	33	第25回	2023年	48
第13回	2009年	24	第26回	2024年	53
第14回	2010年	42	第27回	2025年	60 (予定)



## ツイード スタディコース派遣 日本人インストラクター一覧

1995年		2011年	稲毛滋自 本目祥人 中久木正明
1996年	中久木正俊 山村しげみ	2012年	中久木正明
1997年	中久木正俊	2013年	松原 進 中久木正明
1998年	清水典佳 稲毛滋自	2014年	山村しげみ 馬谷原琴枝
1999年	山村しげみ	2015年	山村しげみ 中久木正明 高橋滋樹
2000年	野間秀郎 小泉理砂	2016年	本目祥人 中久木正明 馬谷原琴枝
2001年	清水典佳	2017年	稲毛滋自 山村しげみ 中久木正明
2002年	有本方恵	2018年	松原 進 中久木正明
2003年	藤崎臣弘	2019年	飯島重樹 馬谷原琴枝 納村泰弘
2004年	中久木正明	2020年	コロナの影響で不参加
2005年	中久木正明	2021年	コロナの影響で不参加
2006年	松原 進	2022年	コロナの影響で不参加
2007年	中久木正明	2023年	清水典佳
2008年		2024年	山村しげみ
2009年	本目祥人 中久木正明		
2010年	田村隆彦 中久木正明		

## 投稿論文

1. J-hook headgearを用いた成人上下顎前突症例治療の検討 東京矯正歯科学会雑誌 5, 3-10, 1996
2. Tweed法の概念と治療-1,2,3 矯正臨床ジャーナル 1998年7月号
3. Tweed-Merrifield法の臨床のポイント 矯正臨床ジャーナル 1999年7月号
4. Dr. Klontzと語るTweed Philosophyと治療の実際 矯正臨床ジャーナル 2001年11月号
5. Tweed is now. -Tweed フィロソフィーの変遷と治療法- 近畿東海矯正歯科学会雑誌36, 1-6, 2001
6. Tweed-Merrifield法で治療を行った成長期のAngle II級1類症例 臨床家のための矯正YEAR-BOOK 2015
7. ハイプルJフックヘッドギアを用い、下顎の反時計回りの回転により側貌の改善を達成した成人上顎前突症例 臨床家のための矯正YEARBOOK 2016 他

## 2023年 第15回 総会学術大会の紹介

Tweed財団からバーデン先生を招聘し、特別講演をお願いしました。稲毛滋自先生の特別講演と5名の会員発表が行われました。会員による症例展示が行われ、会員同士の討論も活発に行われました。バーデン先生の来日もこの年が最後でしたので、懇親会も感慨深いものがありました。



2023年11月12日 第15回総会学術大会 講演

2023年11月12日 第15回総会学術大会 症例展示



2023年11月12日 第15回総会学術大会 特別講演



2023年11月12日 第15回総会学術大会懇親会 東京ガーデンパレスホテル

## 2024年 第26回 プレツソンコースの紹介

予定定員を超えた54名の参加者で開催されました。インストラクターは延べ20名、5班編成で、3日間、講義とワイヤーベンディング実習が行われました。ツーンの本コース(7日間)では4症例のタイポドント実習が行われますが、プレツソンではアングル I 級上下顎前突、上下左右第一小臼歯抜歯症例についてのみ、ペーパータイポドントを用いて実習を行っております。.022スロットのスタンダードエッジワイズブラケットを使用し、.0215×.028フルサイズのワイヤーベンディングも行います。インストラクターから詳細な指導が行われ、1日目は皆さん苦戦しますが、2日目、3日目となるに従い、スピードも上がりワイヤーベンディングに自信ができてきます。懇親会では、他大学や開業医の先生方との交流で皆さんそれぞれに刺激を受けていました。この中から、毎年10名ほどがアメリカ本コースを受講されています。



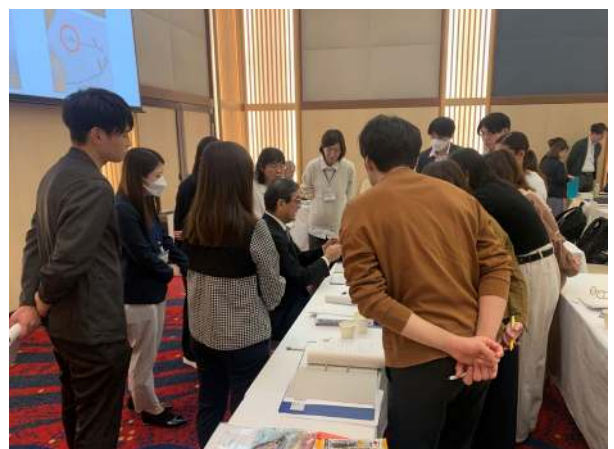
会場風景



個別指導



講義・症例説明



ベンディング デモンストレーション



個別指導



個別指導

クロンツ先生、バーデン先生との強い絆 思い出の写真集



2006年箱根旅行



2008年4月 Tweed Course



2014年Tweed Course



2014年Tweed Meeting



2014年Pre-Tucsonコース



2015年 第11回総会学術大会



2016年 Tweed Course



2016年 Tweed Course



2017年 第12回総会学術大会



2017年Pre-Tucsonコース



2018年 Tweed Meeting



2017年Pre-Tucsonコース



2018年 清水先生退任祝賀会



2011年11月6日 第9回総会講演会会場



2013年6月23日 第10回総会講演会会場



2013年6月23日 第10回総会講演会 懇親会場



2017年10月30日 はとバスツアー浅草観光



クロンツ先生、長きにわたり  
本当にありがとうございました

## 第2章 クロントツ先生への追悼文集

Memorial collection for Dr. Klontz

日本Tweed矯正歯科研究会を30年導いた父





## クロンツ先生との出会いからお別れまで —支えられた40年—

日本Tweed 矯正歯科研究会会長  
日本大学名誉教授  
清水典佳

私が大学院を修了した翌年の1983年10月に初めて数名の仲間とTucsonを訪れ、第50回のTweed study courseを受講しました。実習内容が今までのTweed法からTweed-Merrifield法に変更になったばかりで、その講義内容を十分理解できず、慌てて会場で購入したJournal of Tweed Foundationに掲載されていたTweed-Merrifield治療法の論文を必死に読んで、何とか付け焼刃で講習内容を理解したことを覚えております。インストラクターは皆大変熱心で、時には図を書いて説明してくれ、インストラクターの熱い思いを感じました。私が初めてお会いしたクロンツ先生は講義、実習と大変アクティブに活動し大変忙しいように会場を動き回っており、正にコースを仕切っている偉い先生という印象でした(図1)。それ以来私のTweed人生が始まり、その後、2回のTweed Meetingでの症例審査をパスしメンバーになることができました。そんな時、私の主任教授であった岩沢忠正先生が1992年3月にメリフィールドとクロンツ先生を講演に招聘し、先輩の先生と共に成田まで迎えに行きました。翌日4人での東京観光のバスツアーに同乗させていただき、始めて偉い先生方に接近することができました。

一方、現在名誉会長である中久木正俊先生が設立したTweed矯正歯科研究会の1995年の総会では、クロンツ先生に特別講演をお引き受けいただき、さらに1997年からはクロンツ先生にPre-Tucson courseを開催していただくことになりました。その時から毎年コースをお手伝いさせていただき、クロンツ先生や中久木先生と共に箱根の名湯に浸かり大変親しいお付き合いをさせていただきました。2006年にはクロンツ先生の講演後に日本大学歯学部矯正学講座の医局旅行にも特別ゲストとしてご参加いただき、楽しい温泉旅行と宴会を満喫することができました(図2)。

また、1998年と2001年にはクロンツ先生と中久木先生のはからいでcourse instructorとしてTweed courseで教育する機会を得て、世界中の若い矯正歯科医と接し素晴らしい経験をすることができました(図3)。さらに、私の教授退任記念祝賀会には遠くオクラホマから東京にまで足を運んでいただき、心温まるご祝辞をいただきました。サプライズとはいえ、クロンツ先生の登場に私は呆気にとられ言葉も出ませんでした。ただただ感謝の念に堪えませんでした(図4,5)。私が大学を退任後にクロンツ先生にまたお声掛けをいただき、2023年6月には再度instructorとしてTucsonに立つことができ、若き矯正歯科医に接し前回とは異なった良い経験をすることができました(図6)。コロナ禍でクロンツ先生にも4年ほどお会いできず久しぶりの再会でしたので、お酒をたしなみながら、日本での中久木先生との出会い、Pre-Tucsonコースでの出来事やパーティーでのお楽しみなど、心に残った沢山の思い出話をさせていただきました(図7)。「今でも日本に行きたいけれどフライトがきつくなってきた…」と残念そうに話していたのが印象的でした。それから半年ほど経過し体調が急変し新年を迎える前にご逝去なされたことをお聞きし、大きなショックを受けました。矯正歯科界の大きな大黒柱を失った焦燥感と落胆を痛感しました。6月にお会いしたのが最後になってしまいました。ずっとお世話になった先生に最後にお会いできて幸運でした。

私の45年余りの矯正歯科人生の大半に渡りクロンツ先生とTweed philosophyに支えられてきました。Edgewiseの基本はTweed philosophyにあり、難症例にはTweed philosophyとずっと信念をもって進めてきましたが、それは最適な解であると今でも確信しております。

40年にも渡りご指導いただいたクロンツ先生の「営利に走らない最善の矯正歯科治療の提供」という患者への愛情に満ちた信念に報いるためにも、日本Tweed矯正歯科研究会の一員として、Tweed philosophyを発展させ、昨今信頼が失墜しかけている矯正歯科界の信頼回復と、患者も先生も皆幸せになれる明るい矯正歯科界の発展を推し進めてゆきたいと考えております。



図1 1983年10月 第50回 Tweed study course



図2 2006年 6月10日 日本大学歯学部歯科矯正学 講座医局旅行 熱海後樂園ホテル



図3 1998年9月13-24日 第79回Tweed study course



図4,5 2018年3月21日 退任記念祝賀会



図6,7 2023年5月28-6月3日 第144回Tweed study course

**From meeting Dr. Herbert Klontz to parting ways  
-Guided for 40 years-**

Noriyoshi Shimizu  
Chairman of Japanese Tweed Orthodontics Association  
Professor Emeritus, Nihon University, Tokyo Japan

In October 1983, the year after I completed graduate school, I visited Tucson with a few friends for the first time and took the 50th Tweed study course. The content of the practical training had just changed from the Tweed method to the Tweed-Merrifield method, and I was unable to fully understand the lecture content. I remember frantically reading a paper on Merrifield's Tweed-Merrifield treatment published in the Journal of Tweed Foundation that I had bought at the venue, and somehow managed to understand the content of the course with a superficial understanding. All the instructors were very enthusiastic, and sometimes they drew diagrams to explain things, and I felt their passion. When I first met Dr. Klontz, he was very active in lectures and practical training, moving around the venue looking very busy, and I got the impression that he was a great teacher who was in charge of the course (Fig. 1). Since then, my Tweed life has begun, and I passed the case exams at two subsequent Tweed meetings and became a member.

At that time, my then-major professor, Professor Tadamasawa Iwasawa, invited Drs. Merrifield and Klontz in 1991. I went to Narita Airport with my senior colleague, Dr. Shuichi Ono, to pick them up, and the next day I was allowed to join them on a bus tour of Tokyo, which was how I got close to them for the first time.

Meanwhile, at the 1995 general meeting of the Japanese Tweed Orthodontic Association, which was established by Dr. Masatoshi Nakakuki, now honorary chairman, Dr. Klontz gave a special lecture, and from 1997 he also held a Pre-Tucson course in Japan. From that time on, I helped out with the course every year, and we developed a very close relationship, soaking in the famous hot springs of Hakone together with Drs. Klontz and Nakakuki. In 2006, after his lecture, he also participated as a special guest in the Nihon University School of Dentistry Orthodontics Department's trip, where we enjoyed a fun hot spring trip and banquet (Fig 2.).

In 1998 and 2001, I had the opportunity to teach the Tweed course as a course instructor thanks to the kindness of Drs. Klontz and Nakakuki, and I had the wonderful experience of interacting with young orthodontists from all over the world (Fig. 3). Furthermore, Dr. Klontz came all the way from Oklahoma to Tokyo to attend my retirement celebration as a professor and give me a heartwarming speech. Although it was a surprise, I was stunned and speechless when Dr. Klontz appeared, but I was simply grateful (Figs. 4,5).

After I retire from the university, Dr. Klontz asked me to come back to Tucson in June 2023 as an instructor, and I was able to have a good experience interacting with young orthodontists, which was different from the last time (Fig. 6). It had been about four years since I last met Dr. Klontz due to the COVID-19 pandemic, so we had a drink and he told me many memorable stories, such as his meeting with Dr. Nakakuki in Japan, events in the Pre-Tucson course, and fun at the party (Fig. 7). "I still want to go to Japan, but the flights are getting harder..." he said with a sad look on his face. About half a year later, his health suddenly worsened, and I was shocked to hear that he passed away before the New Year. I felt the frustration and disappointment of losing a major pillar of the orthodontic world. Although my last meeting with him was in June, I was fortunate to be able to meet him who had taken care of me for so long.

For the majority of my 45-year career in orthodontics, I have been supported by Dr. Klontz and the Tweed philosophy. The basis of Edgewise is the Tweed philosophy, and I have always believed in the Tweed philosophy when it comes to difficult cases, and I still believe that it is the optimal solution.

To repay the loving belief of Dr. Klontz, who has guided me for 40 years, of "providing the best orthodontic treatment possible without the pursuit of profit," I, as a member of the Japan Tweed Orthodontics Association, would like to develop the Tweed philosophy, restore trust in the orthodontic field, which has recently been in the process of losing credibility, and promote the development of a bright and cheerful orthodontic field where both patients and orthodontists can smile.



長きにわたる友情とパートナーシップに感謝して  
親愛なるHerbert Klontzへ

日本Tweed矯正歯科研究会  
名誉会長 中久木正俊

クロンツ先生、日本のプレツucsonコースのために30年程の間ご協力いただき、本当にありがとうございました。お陰様で今は清水先生に引き継がれコースは隆盛で活況を呈していて、これから先も明るく皆希望に燃えています。本当にありがとうございました。安らかにやすみください。

「ハイ、クッキー」ホテルの前の公園を散歩していたら、ジョギングをしながらクロンツ先生が私に声を掛けてきた。初めてアメリカ、ツーソンのTweed Study Courseのインストラクターとして行った時だった。その時私は自分のインストラクターとしての仕事に満足できなかったため、彼と並んで歩きながらもう一度私にチャンスを下さいと彼に頼んだところ、翌年のコースインストラクターにもう一度呼んで下さりました。それがクロンツ先生との出会いでした。

私がメリフィールド先生から日本でもツイードの組織を作るよう助言を受けその会長となった当時、渡米してTweed Study Courseを受講する日本人が言葉の問題で苦勞し十分にコースで実力が発揮できていなかったため、そのハンディキャップを補うために2~3日のスタディコースを日本で行いたいとクロンツ先生にお願いしたところ、快く指導のOKを頂き、それ以来30年近くに亘り来日指導いただきました。そのことが日本人インストラクターにも非常に勉強になりました。私としては今では日本のプレツucsonコースが世界で一番充実していると思っています。

最後に、彼にはこれまで家族共々とてもお世話になり、特に息子の中久木正明には日米双方の地で息子のように目をかけて下さりました。改めてお礼申し上げます。

**Dear Herbert Klontz, Thank you for your long-standing friendship and partnership**

Masatoshi Nakakuki  
Japanese Tweed orthodontic association Honorary Chairman

Herb, thank you so much for your cooperation with the Pre-Tucson Course in Japan for over 30 years. Thanks to you, the course is now thriving under Dr. Noriyoshi Shimizu's leadership, and everyone is filled with optimism and hope for the future. Thank you so much. Rest in peace.

"Hey, Kuki." As I was walking in the park in front of the hotel, Dr. Klontz called out to me as he jogged. It was my first time as an instructor for the Tweed Study Course in Tucson, USA. At the time, I was dissatisfied with my work as an instructor, so as I walked alongside him, I asked him to give me another chance. He invited me back to be a course instructor the following year. That was how I first met Dr. Klontz.

When I became its president after receiving advice from Dr. Levern Merrifield established a Tweed organization in Japan, I noticed that Japanese students who visited the United States to take the Tweed Study Course struggled with language barriers and were unable to fully show their abilities. To address this issue, I asked Professor Klontz if I could hold a two- or three-day study course in Japan. He gladly agreed, and since then, he has been coming to Japan to teach for over 25 years. This has been a great learning experience for our Japanese instructors. I believe that Japan's Pre-Tucson course is now the most comprehensive course in the world.

Finally, I would like to express my sincere gratitude to me and my family for all his help over the years, especially to my son, Masaaki Nakakuki, who has looked after him like a son in both Japan and the United States.



## **Herb Klontz, My Thoughts**

Jim Vaden  
Tweed Study Course Director

The measure of a person can be determined by what he gave those around him while he was here on this earth. Dr. Klontz gave so very much to so many people. He completely changed the way thousands of orthodontists think about treatment planning and force systems. Herb Klontz left a tremendous legacy throughout the world.

Herb Klontz was the consummate teacher of orthodontics. He taught at St. Louis University and subsequently, at the University of Oklahoma for many years. He was the Course Director of the Tweed Study Course for 27 years, was Co-Director with me for ten years and was Director Emeritus until his death in 2023. In addition to his service at the University of Oklahoma and at the Tweed Study Course, he traveled the world to lecture and teach orthodontics to young people. The only continents he did not visit were Australia and Antarctica! He traveled to Japan for approximately 25 consecutive years and was very instrumental in helping form the Japanese Tweed Association. He continued to nurture the Japanese Tweed Association and the Pre-Tucson wire bending exercises until his health deterred him from making the trip. His efforts in Japan have made a wonderful impact on the orthodontics delivered to the patients of Japanese orthodontics. His influence on orthodontics in Japan will remain for generations to come.

On a personal note, Herb Klontz was a dear close personal friend and colleague. We talked several times a week about orthodontics, about the Tweed Course, about what was happening in our lives, etc. He was a wonderful friend and role model. He and I traveled the world together and roomed together at the Tweed Study Course in Tucson from 1988 until the time when he could not attend due to his health. We never had a cross word and always respected the opinion of each other, even though we might not agree about everything. When I became the Course Director, he was a wonderful sounding board and a true mentor who helped me get through my first couple of years as the Director of the Tweed Study Course. I miss him. I would love to talk with him about various problems that we now have, but I don't have him, so I have to think about what he would have guided me to do.

I congratulate the Japanese Tweed Association on its 30year anniversary and am sure it will last until perpetuity because of the hard work of the many wonderful Japanese Tweed members who put their heart and soul into the philosophy and who have dedicated their lives to preserve the goals and concepts for which we stand. Please accept my heartfelt congratulations as you celebrate your 30th anniversary.



## 日本Tweed矯正歯科研究会30年の歩みによせて

東京医科歯科大学(現 東京科学大学) 名誉教授 黒田敬之

日本Tweed矯正歯科研究会発足30周年、誠にありがとうございます。

1960年代に、岩沢先生や関口先生が、TucsonでのTweedコースを受講されたのを機にコースの存在の意義が身近に感じられるようになり、その後、毎年受講者が出るようになりました。日本からも岩沢先生や与五沢先生をはじめ多くの先生方がTucsonでのInstructorを務められるようになりました。1994年には、中久木先生と尾崎先生の発案で日本Tweed矯正歯科研究会の発足を見、1995年には第1回の研究会が開催されるに至ったと聞いております。

私は、1998年に、Tucsonでの研究会で講演を依頼され、終了後、その年の大会長Dr. Tom GebeckからTweed研究会の名誉会員に推薦されました。会長はDr. Lavern Merrifieldでした。

その後、Dr. Klontzが会長に就任されましたが、残念ながら数年前に他界されました。現在はDr. James L. Vadenが会長を引き継がれています。

Dr. Klontzの日本部会への貢献は極めて大きく、毎年の研究会に来日され、分かりやすくTweed technicの真髄を講演していただいたことでした。今では懐かしさが溢れてきます。先生のご冥福を心からお祈りいたしております。

本会のますますのご発展を御祈りいたしております。

Takayuki Kuroda

Professor Emeritus, Tokyo Medical and Dental University, Japan

We all appreciate Dr. Herbart Klontz. Without his kind supports and efforts, we could not see present status of Japanese Tweed Orthodontic Society. He always make a lecture with easy understanding joke.

Thank you very much for his kind supports to develop our Society.

We all extend to his family our heartfelt condolences.



新潟大学名誉教授 花田晃治

Kooji Hanada,

Professor Emeritus, Niigata University, Japan

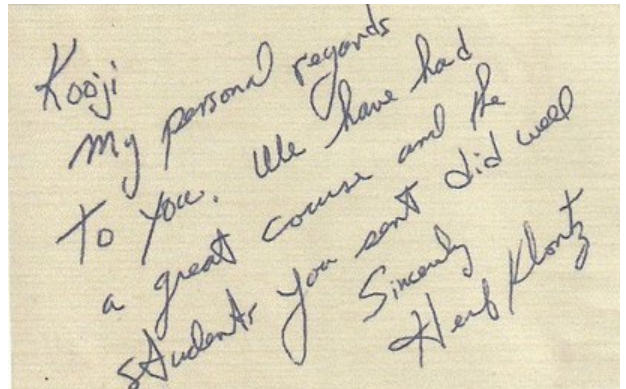
Hi ! Dr. Klontz !

I am so surprised to hear the death of you and I would like to offer my condolence on loss of you.

I met you first in Tucson, Arizona on April, 1989 , when I attended the orthodontic course of the Tweed International Foundation with nine staff members of orthodontic department, Niigata University. You were always kind and cheerful for us. We could perfectly understand the Tweed -Merrifield philosophy and techniques in the two weeks course. I heard from the staff of course you are US student champion of Golf and it was so unfortunate for me that I couldn't play golf with you during my stay in Tucson.

The following letter is an heirloom for me.

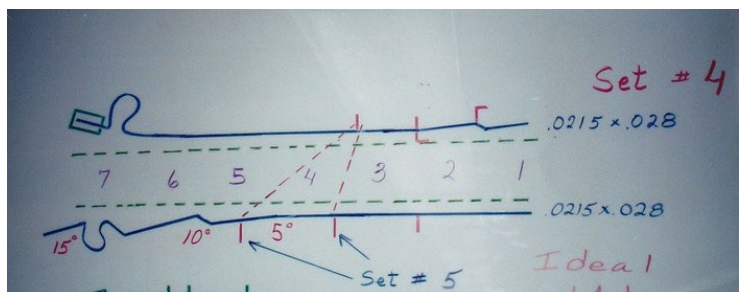
Kooji: My personal regards to you. We have had a great course and the students you sent did well. Sincerely, Herb Klontz



(Hanada)



(Sasakura)



Drawn by Dr.Klontz

## 誓い

いなげ矯正歯科医院 稲毛滋自

1992年、自らの矯正治療に行き詰まりStandard edgewise法の総本山Tweed Foundationの門をたたきました。そこでKlontz先生と出会い、先生の矯正治療への情熱に感化され矯正歯科医として私は生まれ変わりました。それから30余年、かなわぬこととは知りつつKlontz先生の背中に少しでも近づきたいとの思いだけで走り続けてきました。2023年12月28日Klontz先生ご逝去の報に接し打ちのめされ、30余年におよぶKlontz先生との思い出が走馬灯のように蘇ってまいりました。Klontz先生への微々たるご恩返し、後輩の先生方へKlontz先生の矯正治療への情熱を伝えてゆきます。

### In memory of Dr. Klontz

Shigeyori Inage Inage Orthodontic Office

I am deeply saddened by the news of Dr. Klontz's passing, and memories of past scenes and images come to mind. I met him for the first time in 1992 when I joined the Tweed Foundation, the authority of Standard edgewise technique. At the time, I encountered a dead end in practicing orthodontic treatment. His professionalism and deep passion for orthodontics inspired and revitalized me as an orthodontist. I have been following his footsteps for about 30 years since then. I will never forget his passion and contribution to orthodontics and will pass it on to younger generations.



## 親愛なるKlontz

しげみ矯正歯科 山村しげみ

あなたは20年以上の長きにわたり、毎年日本に来日され、常に揺るぎない情熱とエネルギーで、私たちに指導をしてくださいましたね。私たちはあなたの温かく力強い言葉に、たくさんの勇気と力をいただきました。

そして、あなたは私たち日本人との交流、日本の文化、食、伝統を理解し、愛してくださいましたね。あなたの存在があったからこそ、今の私たちがあると言っても過言ではありません。たくさんの素晴らしい時間を共に過ごし、すべてが忘れることのできない思い出となっています。

「しげみはワイヤーベンディングが一番上手い」と、オクラホマの生徒たちに言ってくれていたことに、感謝の気持ちを伝えると、「私はみんなにそう言っているよ」と微笑んで言ってくくださったこと、私にとっても名誉なことであり、私の人生の宝物の一つとなっています。

あなたの存在とスピリットを決して忘れる事はないでしょう。心よりご冥福をお祈りいたします。

Dear Klontz

Shigemi Yamamura Shigemi's orthopedic office

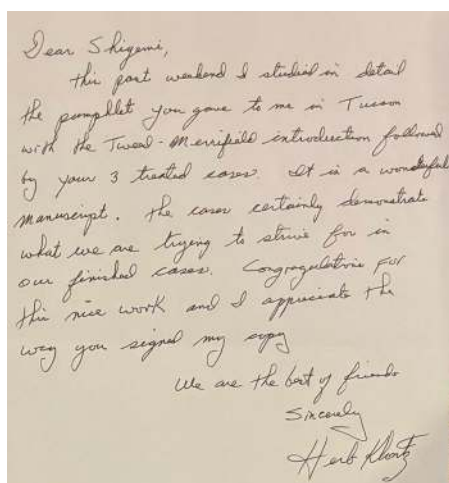
For over 20 years, you visited Japan every year, always guiding us with your unwavering passion and energy. Your warm and powerful words gave us so much courage and strength. You embraced your connection with us Japanese people, showing a deep understanding and love for our culture, food, and traditions.

It is no exaggeration to say that we are who we are today because of your presence and influence. We shared so many wonderful moments together, all of which have become unforgettable memories. When I expressed my gratitude to you for telling your students in Oklahoma that "Shigemi is the best at wire bending," you smiled and said, "I tell that to everyone." That moment was such a great honor for me, and it has become one of the treasures of my life.

I sincerely pray for your peaceful rest. Your presence and spirit will never be forgotten.



1996年9月  
Tweed Study Course



2000年1月  
クロンツ先生からいただいた手紙



2022年10月 Tweed Meeting

## Herbert Klontz —アメリカの父と慕った偉大な矯正家との思い出を振り返る—

中久木矯正歯科 中久木正明

私が日本とアメリカでツイードと関わるようになって以来、アメリカの父として慕う存在であった Herbert Klontz 先生が亡くなった。いろいろ思う事はあるが、オクラホマシティにあった彼のクリニックを訪問し、その後 Tweed Study Course へ向けてのドライブに同行した際の記憶を振り返ることで追悼としたい。

朝6時 自宅ダイニングで軽い朝食。ツーソンへの出発準備は前日までに済ませている。妻カレンとの暫しの別れも前の日に済ませているので、彼女は起きてこない。起きてきた白いポリショイ犬ターシャと別れの挨拶をして、車に乗り込む。普段は自分用のスポーツカーだが、今日運転するのは Tweed Study Course 中活躍する白いフォードエコノラインバンだ。いつものハイウェイを走り10分ほどでクリニックに着く。既に衛生士のキムと受付のリリーが来ている。ツーソンへの出発は昼前なので、午前中に少し診察を行う。午前7時半から9時代まで、学校へ行く前の子供達や成人の患者が訪れる。広々とした診療スペースにはリクライニングが倒された診療椅子が4台並ぶ。アメリカらしく木目を多く使ったキャビネットが目を引き。壁面の模型棚には今迄の治療成果を示す石膏模型が一面に並べられている。正面はガラスになっており、どこかで見たような石灯笼が見える。彼曰くジャパニーズガーデンを模して造ったそうで、床には玉砂利が敷かれ飛び石もある。植栽もどことなく盆栽のように刈り込まれている。彼が日本を訪れるようになってもう十年以上になる。

診療椅子に患者が通され、診療台には模型やセファロ等患者資料一式が用意される。私に見せるためではなく、診療する度に資料一式を揃えて治療を行うのだそうだ。そして彼は問いかける。「この患者のフェイスをどう思うか？」私が答えると、次に視線は模型、セファロへと移る。口頭試問のような雰囲気である。抜歯の有無を含めた治療方針を答えた後、口腔内を示して治療経過の説明に移る。彼の治療方法は Tweed Study Course で実習するものと同じだ。治療方針、ブラケット、レクタンギュラーワイヤー、シーケンシャルボンディング、タイポドント実習で学んだことと同じである。コースで行うタイポドント症例は、彼が治療した実在する症例から選ばれそれを模している。彼の臨床とスタディーコースは一体不可分の関係と言える。チェアサイドで彼が患者から外したレクタンギュラーワイヤーは大きく変形していた。否これは変形ではなく、不正歯列に合わせてパッシブな状態に近づけるため多くのボンディングが為された形である。レクタンギュラーワイヤーをブラケットに挿入するため、過度な力や破損しないように注意しながら、ファースト、セカンド、サードそれぞれにエフェクティブ要素を加えながら屈曲されたワイヤーである。来院の度にワイヤーは調節され、エフェクティブ要素を加え、少しずつフラットに、理想的形態に近づけるのである。たまにはイニシャルワイヤーにラウンドワイヤーを使うこともあると彼は言った。続けて可及的速やかにレクタンギュラーワイヤーに替えると言った。その頃には隣の診療椅子に次の患者である少年が座り、ハンディゲームをしながら待っているのだった。彼と衛生士キムが連携して、次々と訪れる患者の処置を行っていく。

朝一番の患者が一段落すると、彼は隣室の院長室に移動する。院長室は天井まで書籍や書類が並べられた細長い部屋の中央に彼の机が置かれている。日本からの思い出の品々の多くはここに飾られている。ここで彼は電話をかける。電話の相手は多数あるが、ほぼ毎回かけるのはジェームス・ベイドンだ。彼とはほぼ定時連絡のように頻繁に電話をしている。その頃ふらりと顔を出すのがドン・ジェームスだ。彼は棟つながり隣接する場所で矯正歯科医院を開業している。歯科医院が同じエリアに隣接しているのが珍しいアメリカだが、矯正歯科医院が隣接している例は多くない。それだけでなく二つの医院は内部で繋がっていて、お互いに頻繁に行き来している。もちろん二人は仲良しで、お互いの手が空く時間帯も心得ているようだ。ドン・ジェームスの医院へ抜ける通路の途中にレントゲン室があるが、彼らはこのレントゲン装置も共用している。パントモ装置は撮影時円を描いて回転しない古風なもので、側方歯部分から動いてきたコーンが前歯部分にかかるとうんと音を立てながら横スライドをする。コーンの動きが円ではなく台形を描いているのだ。ツイードミーティングで見る二人の症例のパントモ写真の前歯部分が同じように白飛びしているのは、二人がこの撮影装置を使っているからだと判った。

クリニック通用口に近い狭いスペースに彼の技工所がある。彼は全ての患者のリテーナーを技工所に出さずここで作っている。彼はリテーナーを楽しみながら作っていると言う。今迄の動的治療を振り返りながら、患者に応じてアタッチメントを選んだり装置の形状を考えながら作る。作業機の壁にはいくつもの妻カレン、愛犬ターシャの写真、そして最近加えられたらしい初孫モルガンの写真が貼られている。技工物製作は患者の合間に行う作業の一つである。

朝の診療が終わるとツーソンへ出発だ。医院から最後の荷物を積み込むと車は一杯になる。三列ある座席の最後部に空間が残されているが、ここは同乗者のためのスペースとなる。留守番のキムとリリーと挨拶をして車を発進させる。ツーソンまでは14時間、時差があるので実際の運転時間は16時間になる。一旦ハイウェイに乗るが、30分ほど走った町で降りる。ここは同乗者となるスティーブ マッカラの住む町で、彼をピックアップするためだ。妻の見送りを受けた彼と荷物を乗せると車は一杯になった。それでも最後部座席面を辛うじて空けている理由は、途中交代で仮眠を取れるようにするためだ。16時間の運転は昼夜未明に亘る。談笑しながら行きたいところだが、全員が同時に眠気を催してはならない。ハイウェイの最高速度である75や80マイル毎時に車のオートクルーズをセットする。約3時間毎に運転手を交代しながら走る。日本との時差が残る身には、アメリカの午後から宵にかけての時間帯が一番眠気を催す。出発早々に寝るのも恐縮だが、事情を話して仮眠の順番を早くしてもらおう。その代わりに彼らが眠くなる夜中に長く運転する。

仮眠から目覚めても周囲の風景はあまり変わらない。緑色の草原や牧草地のようなゆるやかな起伏のある場所だ。そこをハイウェイは一直線に突っ切って進む。進んでも進んでも同じ風景に見える。それでもテキサスに入ったからか、牧草地に黒や茶色の牛を多く見るようになる。いつかは赤身ステーキの肉牛となるのだろう。夥しい数の牛が群れている農場もある。遠くを貨物列車の線路が並走する。こちらが疾走しているせいで列車は動いているのか止まっているのか判らないが、何分経っても貨車の列が帯となり途切れない。6時間以上走っても同じような光景だが、草原の起伏の傾斜が徐々に増しているのを感じる。オートクルーズをセットしている車のギアがいきなりシフトダウンされ、車内がエンジンの轟音に包まれる状況が増えてきた。同じような起伏に富んだ草原に見えても、一つ一つの起伏の斜面が山登りのような角度であったりする。それでも道は頑なに一直線に敷かれているので視覚と勾配のギャップが大きい。きつい上り坂で大型トラックは赤いハザードを灯しながら牛歩のような速度となる。身軽な乗用車は皆オートクルーズで平地の速度のまま走れるので、その速度差はとて大きい。車線変更のタイミングを誤ると遠く前方だったトラックがあっという間に眼前に迫る。おちおち眠気を催してられない。

辺りが夕闇になろうかという頃に夕食となる。ハイウェイサイドのカジノのネオンが眩しい小さな町だ。もうニューメキシコ州に入っており1時間時計が遅れている。主にステーキが思い思いのメニューを注文して食べる。これで行程の半分をようやく過ぎたところだ。ひたすら西に向けて走っているのに、車の速度でも日暮れが遅くなったのを感じる。闇夜になった後も道は上り坂だったが、やがてひと山超えたようで下り坂になる。地図上ではメキシコの国境に近い西南部を走っている。ニューメキシコ州も目的地アリゾナ州もメキシコと国境を接する州だ。道はツーソンでお馴染みのハイウェイ、インターステート10号に合流した。もう着いたような気分になるが、まだまだこの先6時間は走ることになる。ここで5度目の給油を行う。給油の度に分担して前面の窓掃除をする。高速走行をしている間に大小多数の虫がぶつかりその体液が窓ガラスにこびりつく。ガソリンスタンドには青色のワイパー洗浄剤のような液体が備えられており、付属のスポンジ状のブラシを使いモップをかけるように汚れを落とす。車高も高く横幅も広い車なので片側からだけではガラス面をカバーできない。車の両側、そして前方のナンバープレート部分が可倒式のステップになっており、正面からもガラスを拭く。一日に何十回も清掃に使われたであろう洗浄液は少しどろんとした緑とも黄色ともつかない色の液体と化している。車の燃費はお世辞にも良いとは言えないし、エンジンもV8の大型なので、一回の給油で30ガロン近く入る。それでもこの頃はガソリン価格が安かったので、50ドルに満たない会計で驚いたりもした。

道はやがて上り坂になり、車のハイビームにごつごつとした岩山が照らされる。アメリカ大陸を東西に隔てる分水嶺をここで越える。標高は低くロッキー山脈のような急峻な山々や万年雪があるわけではないが、その分山道が楽に超えられるので大陸横断の主要ルートの一つになっている。昼夜を問わずトラックが行き交っている。周囲は岩山と砂漠が広がり、ツーソンに近い光景になる。ニューメキシコ州はテキサス州よりもハイウェイの最高速度が少し高い。それに合わせてオートクルーズをセットすると、巡航速度は130キロ近いものとなる。夜道だし道が本当に一直線なので速度感覚が鈍る。ハンドルも敏感になるので、眠気こそ無いが気の抜けない運転が続く。彼は食後少し寝ていたようだが、起きた後はイヤホンを当てCDを聞いている。こういう時の為にお気に入りのオーディオブックを持参していた。

午前零時を回りアリゾナ州に入る。さらに時計は1時間遅れる。道は下り坂になり、前方に町の灯りが広がり始めた。これまで何度となく前方に町の灯りを目にしたが、今度は灯りの数がどんどん多くなり広がっている。ツーソンに近づいたのだ。ツーソンは近郊の町を含めると80万人近い人口を擁する大都市である。やがて道路標識に見覚えのある通りの名前が現れる。出口となるインターチェンジの看板を前に久しぶりに減速する。時刻は午前3時を過ぎている。車は10分ほどで常宿としているホテルに到着した。部屋をシェアする人が既にチェックインしているので、車は直接部屋の前につける。数時間後の朝食までしばし仮眠を取る。今日は11日間のスタディーコースを前に行われるインストラクターミーティングの前日に当たる。午前中からツイードファンデーションに出向き、コースの準備に取り掛かる。

私はこの時限りの運転だったが、彼はスタディーコースの度にこの行程を往復で繰り返している。彼が移動に飛行機を使わない理由は、ツイードバンに積まれた大量の荷物にある。その多くは段ボール箱に詰められたタイポドントのワックスフォーム部分である。タイポドント実習を行う講習会では不正歯列状態を再現するセットアップ作業を実習時間に含むものが多いが、作業を受講生や不特定の人が行うとその質のばらつきが大きいことがかねてからの問題であった。ツイードスタディーコースではある時からこの作業を内製化して、大量のワックスフォームスペアをローテーションさせることでフォームの均質化と実習の効率化を図った。しかし実現のためには以前より大量のワックスフォームのストックと輸送が必要になる。ツイードバンはその輸送を担っている。そしてオクラホマでその作業を主に行うのは、彼の妻カレンだ。自宅の一室を作業部屋として暇を見て作業してもらおうそうだが、受講生が増えスタディーコースが年3回になった現在ではかなりの作業量となるだろう。コースで用いるワックスフォームは、通常より低温で軟化する仕様で、ダンキング作業の容易さに繋げている。その代わり変形しやすく、もちろん天地無用であり、航空便、陸上便であってもおちおち委託するわけにはいかないのだ。こうした表には見えない部分も含めて、仲間、同士と共に彼は楽しみながら毎回コースを主宰している。その積み重ねは、1941年から続く世界に比類ないスタディーコースの骨格となっていることは間違いない。



1998年 クロイツ先生診療室



1998年 クロイツ先生診療室



2012年 クロイツ先生診療室



2007年 クロイツ先生診療室  
ケッチャム賞受賞の日本からの祝い寄せ書き



2012年 クロイツ先生診療室

## Precious times spending with a great orthodontist, my American father Herbert Klontz

Masaaki Nakakuki Nakakuki orthodontic clinic

Since I started concerning Tweed in Japan and the US, Dr. Herbert Klontz, who I looked up to as the father of America, has passed away. I have a lot of thoughts and memories, but I would like to pay tribute to him by looking back on the memories of visiting his clinic in Oklahoma City and then accompanying him on the drive to the Tweed Study Course.

6:00 a.m. A light breakfast in the dining room at home. He drives on the usual highway and arrives at his clinic in about 10 minutes. He will see a few patients in the morning.

The patient is shown to a treatment chair, and a set of patient information such as a model and cephalogram is prepared on the table. His treatment method is the same as what I learned in the Tweed Study Course. His clinical practice and study course are inseparably related. The rectangular wire he removed from the patient at the chairside looked greatly deformed. This is not a deformation, but a form that has been bent many times to fit a passive dentition according to the malocclusion. Each time the patient visits the wire, the wire is removed and adjusted, gradually becoming flatter and approaching the ideal arch form.

After the morning clinic, we leave for Tucson. The car is full after loading the last luggage from the clinic. It takes 14 hours to get to Tucson, and because of the time zone difference, the actual driving time is 16 hours. We would like to chat while we go, but we must not all get sleepy at the same time. We drive with a change of drivers about every three hours.

After driving a few hours, the scenery around me doesn't change much. In Texas, I start to see more black and brown cows in the pastures.

Dinner time is just about to fall into dusk. We've already entered New Mexico and the clocks are one hour behind. This is finally half way through the journey. We are on Interstate 10, a familiar highway in Tucson. We filled up with gas for the fifth time here. Every time we filled up with gas, we shared the tasks and cleaned the front window.

The surrounding area is covered with rock mountains and desert, and the scenery is similar to Tucson. He seems to have slept a little after the meal, but after waking up, he put on earphones and listened to a CD. He brought his favorite audiobook with him for such occasions.

It's past midnight and we enter Arizona. We are approaching Tucson. It's past 3 a.m. The car arrived at our hotel in about 10 minutes. We take a short nap until breakfast. Today is the day before the instructor meeting day that will take place before the 11-day study course. We go to the Tweed Foundation in the morning to start preparing for the course. I was the only driver on this occasion, but he repeats this route back and forth for each study course.

He enjoys hosting each course with his good friends and partners (instructors). There is no doubt that the accumulation of these experiences has become the backbone of the study course, which has been running since 1941 and is unparalleled in the world.

## クロンツ先生を偲んで

アルファ矯正歯科 野間秀郎

Tweed法に深い情熱を注がれ、日本ツイード研究会の発展にも大変お世話になりましたクロンツ先生がご逝去され、深い悲しみと喪失の念を禁じ得ません。

私が先生と初めてお会いしたのは、1985年春のツイードコースでした。初対面にもかかわらず、大学に残って1年目の私に、治療の一つひとつに理由と哲学があることを丁寧に教えていただきました。その温かな人柄と、誰に対しても分け隔てなく接してくださる姿勢は、私の心に深く刻まれています。

先生との思い出の数々は今なお鮮明に思い出され、私にとってかけがえのない宝物です。言葉や国境を越えたその情熱と友情は、今も私たちの胸にしっかりと息づいております。

クロンツ先生、本当にありがとうございました。先生の教えを、これからも真摯に受け継ぎ、臨床と教育の場で生かしていくことが、私たちにできる最大の感謝のかたちだと信じています。どうか安らかにお眠りください。

## In Memory of Dr. Klontz

Hideo Noma Alpha Orthodontic Office

We cannot help but feel deep sadness and loss upon the passing of Dr. Klontz, who was so passionate about the Tweed method and helped so much with the development of the Japan Tweed Society.

I first met Dr. Klontz on the Tweed course in the spring of 1985. Despite it being our first meeting, he carefully explained to me that there was a reason and philosophy behind each and every treatment. His warm personality and his attitude of treating everyone equally are deeply engraved in my heart.

I still vividly recall the many memories I have of Dr. Klontz, and they are an irreplaceable treasure to me. His passion and friendship, which transcended language and borders, still live on in our hearts.

Thank you so much, Dr. Klontz. I believe that the greatest way we can show our gratitude is to continue to sincerely inherit your teachings and put them to use in clinical and educational settings. May you rest in peace.



2016年プレッソンコース 懇親会

## クロンツ先生を偲んで

たぶち矯正歯科医院 田淵美佐

クロンツ先生のご逝去に接し、心より哀悼の意を表します。プレツucsonコースでクロンツ先生はコースの生徒さんはもちろん、生徒さんを指導する私たち日本人インストラクターを惜しみなくご指導いただいたこと、その正確なワイヤーベンディングのデモンストレーションは今もお鮮やかに脳裏に心に刻まれています。そのひと時、ひと時はまさにかげがえのない時間でした。Tweed-Merrifield Philosophyの真髄を、クロンツ先生の美しい症例からと、シンプルでわかりやすい情熱的な講義から学びました。数々の知識と技術は、今も私の日常臨床においてかけがえのない宝物となっています。患者さんと向き合う際、ふとクロンツ先生のお言葉や温かな笑顔、完璧な手技が脳裏に蘇り、背筋が伸びる思いがいたします。先生が遺してくださった教えを、今後もプレツucsonコースで誠心誠意後進に伝え、日々の臨床の中でも実践し続けてまいります。クロンツ先生のご冥福を、心よりお祈り申し上げます。

## In memory of Dr. Klontz

Misa Tabuchi Tabuchi Orthodontic Dental Clinic

I would like to express my heartfelt condolences to Dr. Klontz for his passing. In the Pre-Tucson course, Dr. Klontz generously guided not only the students in the course, but also the Japan instructors, including me, and his demonstration of accurate wire-bending is still vividly engraved in my mind. That moment, moment, was truly irreplaceable. I learned the essence of Tweed-Merrifield Philosophy from Dr. Klontz's beautiful case study and from his simple, easy-to-understand passionate lectures. My knowledge and skills are still irreplaceable treasures in my daily clinical practice. When I face a patient, Dr. Klontz's words, warm smile, and perfect technique suddenly come back to my mind, and I feel a chill straighten my spine. I will continue to sincerely pass on the teachings left by the professor to the younger generation at Pre-Tucson course and continue to practice them in my daily clinical practice. I sincerely pray for the repose of Dr. Klontz.



## Dr. Herb Klontzを偲んで

のむら矯正歯科 野村 聡

The Charles H. Tweed International Foundationのボードディレクターとして長年にわたり世界の矯正歯科界を導いてこられた、Herb Klontz先生のご逝去の報に接し、深い悲しみとともに、心から哀悼の意を表します。

私がクロンツ先生と初めてお会いしたのは、1995年の秋に受けたツーソンでのツイードコースでした。その後は、ツイード本部のミーティングや日本ツイード矯正歯科研究会の研究大会という節目ごとに、常にKlontz先生の指導を受けてきました。先生から教わったのは単なるテクニックや知識ではなく、「矯正歯科医としてどうあるべきか」、そして「一人の人間として、どう生きるべきか」という、もっと根源的な姿勢と哲学でした。

厳しさの中にも温かさがあり、常に患者と真摯に向き合う姿、妥協を許さず技術を磨き続けるその背中から、私は数えきれないほど多くのことを学びました。今、私が矯正歯科医として歩んでいられるのは、間違いなくKlontz先生の指導と支えがあったからです。まさに人生のメンターであり、私の矯正歯科医としての礎を築いて下さった方でした。

先生の情熱、誠実さ、そして後進の育成に注がれた愛情は、これからも多くの矯正歯科医の中で生き続けることと思います。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

### In Fond Memory of Dr. Herb Klontz

Satoshi Nomura Nomura Orthodontic Clinic

It is with profound sorrow and the deepest respect that I offer my heartfelt condolences upon the passing of Dr. Herb Klontz, who, for many years, provided distinguished leadership to the global orthodontic community as a member of the Board of Directors of the Charles H. Tweed International Foundation for Orthodontic Research and Education.

My first encounter with Dr. Klontz was in the fall of 1995, when I had the privilege of participating in the Tweed Study Course held in Tucson, Arizona. Since that time, I was fortunate to receive his guidance at many important junctures, including meetings at the Tweed Foundation and biennial meeting of the Japanese Tweed Orthodontic Association.

What Dr. Klontz imparted to me went far beyond technical skill or clinical knowledge. He taught me the true meaning of being an orthodontist, and more profoundly, the guiding principles of how to live with integrity and purpose as a human being.

Though demanding in his expectations, Dr. Klontz was also a man of great warmth. His sincere devotion to his patients, his unyielding pursuit of excellence without compromise, and the example he set through his tireless work have provided me with countless lessons. Without his mentorship and encouragement, I would not be where I am today in my career as an orthodontist. He was truly a mentor for life and laid the foundation of my professional journey.

Dr. Klontz's passion, integrity, and unwavering dedication to the education of future generations will undoubtedly continue to live on in the hearts and practices of countless orthodontists around the world.

May his soul rest in eternal peace.

### These Are The Days Of Our Lives



1995年 TucsonのTweed Course

## いつまでも心に残るクロンツ先生

田村隆彦

クロンツ先生ご逝去の報に接し、深い悲しみと喪失の思いで胸がいっぱいです。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

私が初めてクロンツ先生にお目にかかったのは、1987年4月、アリゾナ州ツーソンで開催されたツイードファンデーションのタイポドントコースに参加したときでした。コースディレクターはメリフィールド先生で、納村元教授のご許可のもと、私を含む4名で参加いたしました。

当時のメリフィールド先生は、若かった私には少し威圧的に感じられましたが、実際には非常に優しく、症例チェックの際も丁寧に指導くださいました。それに対し、クロンツ先生は第一印象から穏やかで親しみやすく、日本人に対してもとても友好的に接してくださったことをよく覚えています。そのお人柄から、先生が親日家でいらっしゃることを感じました。

その後、再びツーソンでコースを受講する機会にも恵まれました。ツーソンは気候・環境ともに素晴らしく、学びの場でありながら、心から楽しめる時間でした。

2010年9月には、日本ツイード研究会において、クロンツ先生のご配慮のもと、インストラクターとして参加させていただく機会を得ました。講習前にはインストラクター同士で講義を行い、昼食を共にし、夜には翌日のシラバスを予習するなど、充実した日々を過ごしました。今振り返っても、本当に楽しい思い出として心に残っています。

毎年、日本ツイード研究会のプレツーソンの講師として来日され、また、隔年開催の総会においても講義や症例検討を通して、私たちに多くの貴重な知識を惜しみなくご教授くださいました。クロンツ先生の優しさ、寛大さ、そして教育にかける情熱に、心から感謝の念を抱いております。

クロンツ先生のご功績と温かいお人柄は、私たちの心の中に今も生き続けています。先生からいただいた教えとご厚情を胸に、これからも矯正歯科に携わる者として、学び続けてまいりたいと存じます。

どうか安らかにお休みください。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

**Dr. Klontz will always remain in my heart.**

Takahiko Tamura

It is with profound sadness that I learned of the passing of Dr. Klontz. I would like to express my deepest condolences and heartfelt sympathy. May he rest in peace.

I first had the honor of meeting Dr. Klontz in April 1987, at the Typodont Course held by the Tweed Foundation in Tucson, Arizona. At that time, Dr. Merrifield served as the course director. With the kind permission of Professor Shinkichi Namura, I joined the course along with three colleagues.

As a young participant, I initially found Dr. Merrifield somewhat intimidating due to his strong presence. However, he was in fact very kind and supportive, especially when he reviewed our cases with great care. In contrast, Dr. Klontz gave a gentle and approachable impression from the very beginning. He treated Japanese participants with sincere warmth and respect, and I felt that he had a deep affinity for Japan.

I had the opportunity to take the course again later, and each time I visited Tucson, I found it to be a wonderful place—with its climate and atmosphere offering an ideal environment for study and personal growth.

In September 2010, I was fortunate to participate as an instructor in the Japan Tweed Study Course. This was made possible through the thoughtful support of Dr. Klontz, along with Dr. Nakakuki and Professor Emeritus Shimizu. Each day before the lectures began, the instructors gathered for briefing sessions. We shared lunch together, and in the evenings, we prepared for the next day's syllabus. Looking back now, those were truly joyful and memorable times.

Dr. Klontz visited Japan annually as a lecturer for the Pre-Tucson course organized by the Japan Tweed Study Group. In addition, every two years, he generously gave lectures and participated in case reviews during the society's general meetings. Through these occasions, he graciously shared his extensive knowledge of orthodontic treatment with us all.

I am deeply grateful for the kindness, generosity, and unwavering dedication Dr. Klontz consistently showed throughout the years. His teachings and his warm personality have left a lasting impression on my heart, and I cherish the memories of those times.

Dr. Klontz' legacy will continue to live on in all of us who had the privilege of learning from him. With sincere gratitude and respect, I will continue to uphold the principles he shared with us and carry them forward in my professional journey.

May he rest in eternal peace.

## クロンツ先生を偲ぶ

日本大学歯学部歯科矯正学講座兼任講師  
斎藤歯科クリニック 阿部 操

1983年4月にTweed course を受講した折に、初めてクロンツ先生にお逢いしました。  
先生に丁寧に教えて頂いたのを覚えています。  
先生はその後、日本へ何度もプレツソンコースを教えにいらして下さり、温かいご指導を頂き、大変お世話になりました。  
先生が亡くなられて、日本Tweed 研究会大会やプレツソンコースでお逢いできなくなりました。  
とても寂しく悲しい気持ちです。  
心よりご冥福をお祈りいたします。

## Remembering Dr.Klontz

Misao Abe

Visiting lecturer, Department of Orthodontics, Nihon University school of Dentistry  
Saito dental clinic

First time I met Dr. Harb Klontz was when I attended The Tweed course in April of 1983 Tucson Arizona.

I remember he teaching kindly and carefully.

After that he has come to Japan many times to teach the Tweed method.

I missed him at the Japan Tweed Association biennial meeting and pre-Tucson course because he passed away.

I feel very lonely and sad.

I sincerely pray for his soul to rest in peace.



1983年4月 TucsonのTweed Course

## Dr クロンツに乾杯

松原矯正歯科クリニック 松原 進

会うは別れの始めという言葉があるが、2023年12月、Facebookで友人より別れを知る事になるとは思ってもいなかった。

ツイードコースのディレクターを長年され、数多くの矯正歯科医の指導をされ、優れた研究も数多く、ケッチャム賞も受けられたクロンツ先生(Herbert Klontz )が亡くなられた。

コロナ禍が過ぎればまたあの優しい笑顔に会うことができると思っていた。私だけでなく、クロンツ先生に多くを学び、臨床や研究のみならずDr.としての在り方など影響を受けられた方は多いと思います。

卒後数年、自分の矯正に対しどこかすっきりせず、先が見通せなかったとき、1996年Tweed courseを受講。私はそこで初めてDr Klontzに出会い、また矯正に真摯に向き合うDrと知り合うきっかけとなった。

混迷の様相をきたしている世界、利益や効率を最優先する資本主義の歪みが懸念され、持続可能な社会を目標とした取組みSDGsが進められている。

ともすればold school と揶揄されがちなTweedだが、old school の意味に近年、大切にしたいと伝統や誇り、また尊敬の念を含むポジティブな意味で使われることが多くなっていると聞く。

長きに渡りold schoolを率いてこられたDr Klontzに今までの感謝を込めて。

### Cheers and Bottoms Up!

Susumu Matsubara MATSUBARA ORTHODONTIC OFFICE

They say that a meeting is the beginning of a farewell, but I never thought that in December 2023, I would learn of my friend's passing via Facebook.

Dr. Herbert Klontz, who was the director of the Tweed Course for many years, a mentor to many orthodontists, and a recipient of the Ketchum Award for his outstanding research, has passed away.

I thought I would be able to see his kind smile again after the Cov. 19 disaster had passed.

I believe that there are many people who learned a lot from Dr. Klontz was influenced not only by his clinical practice and research, but also by his way of being as a doctor.

For several years after I graduated from dental school, I was not satisfied with my orthodontic parsec and did not see what the future held. until took the Tweed course in the spring of 1996.

It was there that I met Dr. Klontz for the first time and got to know a doctor who was sincere about orthodontics.

The world was in turmoil. There are concerns about the distortion of capitalism, which prioritizes profit and efficiency, and the SDGs are being promoted with the goal of a sustainable society.

Tweed is often seen as an "old school," but in recent years, the word "old school" is increasingly used in a positive sense that includes precious traditions and pride to be cherished and respected.

I would like to express my gratitude to Dr. Klontz who has led the old school for a long time.



May 14, 2015 Tweed foundation  
reception at AAO San Francisco 2015



October 25, 2014  
Tweed meeting in Tucson

## クロンツ先生を追悼して

有本矯正歯科 有本方恵

クロンツ先生は、私の矯正歯科医としての人生にとって、大変大きな存在です。医局員時代に大学で招聘講師として講演して下さったのを始めとして、その後、本コースに誘っていただき、さらにメンバーとなるよう声をかけてくださいました。また参加した本コースの時だけでなく、プレツucsonコースに毎年のように来日され、その中で知識やテクニックだけでなく、矯正歯科医としてのあり方、治療への姿勢、人生を楽しむことなど、本当に多くのことを学ばせていただきました。

私は開業時に、初心を忘れないように、そして臨床を通して少しでも偉大な先生を目標としていきたいと考え、クロンツ先生から何かメッセージをいただけますか、と当時会長の中久木正俊先生にお願いしました。今思えばかなり図々しいお願いですが、両先生は快く応じてくださり、戴いた色紙を待合室に掲げています。

こんな素晴らしい先生に教えていただいた、という自慢と、今日も天に恥じない仕事をしよう、後悔のない1日にしよう、という思いを込めて、ここだけは自分で掃除しています。そしてクロンツ先生に「Good job!!」と言ってもらえたら、と思っています。

最後となりましたが、クロンツ先生のご冥福を心よりお祈りいたします。

## Masae Arimoto Arimoto orthodontic clinic

Dr. Klontz has been a very important presence in my life as an orthodontist. He first gave a lecture as an invited lecturer at the university when I was a member of the department, and then he invited me to Tweed course and then asked me to become a member. In addition to the Tweed course I attended, he also came to Japan almost every year for the Pre-Tucson course, and I really learned a lot from him, not only from knowledge and techniques, but also from him about how to be an orthodontist, his attitude toward treatment, and how to enjoy life.

When I opened my practice, I wanted to remember my original intentions and aim to become a great doctor through clinical practice, so I asked Dr. Masatoshi Nakakuki, who was the chairman at the time, if he could give me a message from Dr. Klontz. Looking back, it was a pretty brazen request, but both doctors readily agreed, and his message is now hanging in the waiting room of my office.

I am proud to have been taught by such a wonderful teacher, and with the desire to do a job that will live up to the heavens and make this a day I will have no regrets, I am cleaning this place myself. And I hope that Dr. Klontz will say, "Good job!!!"

I would like to offer my heartfelt condolences to Dr. Klontz.



## クロンツ先生ありがとうございました

日本歯科大学新潟生命歯学部歯科矯正学講座

飯島重樹

明るい笑顔で私たちに数々の学びと指針を授けてくださったクロンツ先生。先生の思いやりに満ちたご指導、そして温かな眼差しは、今も私たちの心に鮮やかに刻まれています。

先生の教えは、ただ矯正にとどまらず、人としてどう生きるかという大切な問いを投げかけ、私に成長の機会を与えてくださいました。

期せずして矯正を教育する立場についての現在、先生から受け継いだ知識や技術だけでなく、感謝の気持ちや、努力を惜しまない姿勢などを支えに歩み続けたいと思います。

どうか安らかに眠りください。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

## Forever in our hearts: Dr. Klontz

Shigeki Iijima

Department of Orthodontics, The Nippon Dental University School of Life Dentistry at Niigata

With a bright smile, Dr. Klontz imparted many lessons and guidance to us. His compassionate guidance and warm gaze are still vividly etched in our hearts.

His teachings went beyond orthodontics; he posed important questions about how we should live as human beings, giving me an opportunity to grow.

Now that I unexpectedly find myself in a position to teach orthodontics, I would like to continue on my path, supported not only by the knowledge and techniques I inherited from him, but also by my gratitude and unwavering willingness to work hard.

Please rest in peace. We pray for the repose of his soul.



2019年4月7日 Tweed Study Course

## 尊敬するクロントツ先生へ

藤崎矯正歯科クリニック 藤崎臣弘

先生は、コロナ禍で来日出来なくなる2019年まで、毎年のように、実に24年に渡り日本に来て頂き、ツイード治療法を日本へ普及するために、言葉では言い表せないほどの献身的なご尽力を賜りました。先生の特別講演やプレッツアーソンコースでのバンディングやレクチャーを毎年繰り返し見て聞いたことが、どれだけ私の診療の根幹を太く強く育てあげたことか。また、私は庶務として大会やコース運営の実務を担当する立場で、先生と密に接する機会も多く、先生のお人柄にも感銘を受けました。足を骨折し松葉づえを突きながらもはるばるオクラホマから来日されコースを最後まで運営されたこと、遠く広島や徳島まで足を運んで頂き特別講演をして頂いたこと、日本人はシャイだからと、講演中や懇親会でもどンドン話しかけて場を盛り上げる姿勢。世界中から受講生が集まるツイードコースのトップであり、ケッチャム賞を受賞するほどの世界的権威の矯正科医なのに、偉ぶるところは微塵もなく、私たちインストラクターや受講生と同じ目線で、相手の気持ちをいつも慮るお人柄は、私にとっては驚きであり感動的でした。コース中に腕を組んで、インストラクター達がデモをする姿を見つめる眼差しには、厳しさの中に愛情がありました。本当に心から尊敬できる先生でした。あのお姿をもう見られないことは本当に寂しいです。私達インストラクター一同感謝を伝える言葉が見つかりません。先生と出会い、これほど長くお付き合いできたことは人生最大の幸運でした。先生の事は決して忘れません。先生の後についていけば良かった我々は、先生を失いどう進むべきか迷う日々ですが、天から我々を見守っててください。先生に天国でお会いした時に褒められるように本気で頑張ります。本当に長い間ありがとうございました。

### To my respected Dr. Klontz

Fujisaki Tomihiro(Tommy) Fujisaki Orthodontic Clinic,

Until 2019, when you were unable to come to Japan due to the COVID-19 pandemic, you came to Japan almost every year for 24 years, and made an indescribable dedication to popularizing the Tweed treatment method in Japan. Watching and listening to your special lectures and bending at the Pre-Tucson course every year has strengthened the foundation of my practice. In addition, as a general affairs officer in charge of the practical aspects of meeting and course management, I had many opportunities to come into close contact with you, and I was also impressed by your personality. You came all the way from Oklahoma to Japan and managed the course to the end despite having a broken leg and using crutches, and you traveled all the way to Hiroshima and Tokushima to give special lectures, and you were always willing to talk to people during lectures and at social gatherings, because Japanese people are shy. Although you are the top of the Tweed course, which attracts students from all over the world, and a world-renowned orthodontist who has won the Ketchum Award, you were not arrogant at all, and always considers the feelings of the instructors and students, which surprised and impressed me. During the course, you folded your arms and looked at the instructors demonstrating, and there was love in your eyes despite your strictness. You were a teacher who we could truly respect from the bottom of our hearts. We are truly sad that we will never be able to see you like that again. All of us instructors cannot find the words to express our gratitude. Meeting you and being able to be friends with you for so long was the greatest fortune of our lives. We will never forget you. We should have followed you, and we are lost and wondering how to move forward, but please watch over us from heaven. We will do our best so that we can be praised when we meet you in heaven. Thank you so much for all your support over the years.



2010年11月27日 徳島県鳴門



2019年10月22日  
第23回プレッツアーソンコース



2017年10月29日  
第12回総会学術大会 懇親会場

## Dr.Klontzへ感謝と敬意を込めて

こいずみ矯正歯科クリニック 小泉理砂

30年前日本Tweed研究会が発足しPre-Tucson Courseが始まった際、Klontz先生がそれに合わせて毎年日本へお越しくくださったことに深く感謝しております。Klontz先生が日本の矯正歯科治療の発展のため残してくださったご功績は計り知れません。尽きることのない探究心と温かいお人柄は私たちにとって大きな学びであり、かけがえのない存在でした。矯正歯科治療の概念とテクニックを広く伝えていくことの重要性を示してくださいました。また、尽きせぬ情熱揺るぎない信念そして全ての人を包み込むような温かいお心にどれほど多くの会員が感銘を受けたか計り知れません。常に会員一人ひとりに寄り添い優しく見守ってくださったKlontz先生の笑顔は今も私の心に深く刻まれております。Klontz先生の教えと精神はこれからも私たちの心の中で生き続けることでしょう。Klontz先生の安らかなご永眠を謹んでお祈り申し上げます。

## With gratitude and respect to Dr. Klontz

Risa Fukui-Koizumi Koizumi Orthodontic Clinic

Thirty years ago, when the Japan Tweed Study Group was established and the Pre-Tucson Course began, Dr. Klontz came to Japan every year to coincide with the event, and we are deeply grateful for that. Dr. Klontz's contributions to the development of orthodontic treatment in Japan are immeasurable. His endless curiosity and warm personality were a great learning experience for us and were an irreplaceable presence. He showed us the importance of widely disseminating the concepts and techniques of orthodontic treatment. In addition, we cannot measure how many members were impressed by his boundless passion, unwavering beliefs, and warm heart that embraces everyone. Dr. Klontz's smile, who was always close to each and every member and watching over them kindly, is still deeply engraved in my heart. Dr. Klontz's teachings and spirit will continue to live on in our hearts. We pray for Dr. Klontz's peaceful passing.



1990年4月 Tweed course



1999年4月 Tweed course

## Klontz先生との出会い

本目矯正歯科医院 本目祥人

自分が初めてKlontz先生とお会いしたのは、1995年3月にホテルニューオータニのザ・フォーラムで開催された、日本Tweed研究会発会記念でのDr.Herbert Klontz特別講演会でした。

地方出身で、大学の歯学部矯正学教室に在籍させて頂いた自分は、何もかも初めてでとても緊張しました。Klontz先生はスライドのカルーセルをケースでお持ちいただき、そちらからスライドの準備をされました。当時、大学の同期の先生とスライド係を担当し、Klontz先生の“next”という言葉聞き逃さない様、懸命に担当しました。最後の方ではアイコンタクトで講演を終えられたこと深く記憶しております。

Tweed international courseに参加したのは、1995年4月でした。写真(左上・左下)はその時のパーティです。まだMerrifield先生もご存命で、Klontz先生やVaden先生に厳しくご指導頂きました。また、Klontz先生が1997年に日本大学にお越しになられた際、(故納村晋吉教授時代)には、大学で診療させて頂いた患者さん(母校の学生)を診て頂き、アドバイスを受けました。(右上・右下)

2006年に熱海の日大の医局旅行にKlontz先生がご参加された際、もう一度来なさいとお言葉を頂きました。2007年に再度Tweed courseを受講し、2008年のItalyでのmeetingにてFellowを取得しました。Klontz先生達がいつもまとめられていらっしゃる会に、必死についていこうとしていた記憶があります。そういった中でもお声をかけて頂き胸が熱くなりました。

その後instructorとして参加し、2011年東日本大震災後には、OklahomaのKlontz先生のご自宅に宿泊しました。Tucsonのfoundationまでの旅程を大きなバンで長距離を揺られながらご相伴させて頂きました。Klontz先生が伝えて下さったこと、コースディレクター・矯正医としてのみならず、教育の神髄や信念を学ぶことが出来る貴重な経験をさせて頂きました。(写真・Pre Tucson Courseにて)

今回、Klontz先生の訃報をお聞きし、心の中に大きな穴が開いたようです。しかしながら、先生の残されたTweed study courseは続きますし、Klontz先生の遺志はそこに続くものと確信しております。

最後となりましたが、謹んでお悔やみを申し上げます。



左上・左下 1995年4月 Tweed study course 懇親会

右上・右下 1997年10月 日本大学歯学部矯正科

## To meeting Dr. Klontz

Yoshito Homme Homme Orthodontic Office

I first met Dr. Klontz at a special lecture had given by Dr. Herbert Klontz at the Inauguration Commemoration meeting of the Japanese Tweed Orthodontic association held at The Forum, Hotel New Otani, Japan in March 1995.

Being from a country area and enrolled in the Nihon University School of dentistry, Dept of Ortho, I was very nervous because everything was new to me. Dr. Klontz brought a carousel of slides in a case and prepared the slides from there.

I was in charge of the slides with my colleague at the time, and we worked hard to make sure we didn't miss Dr. Klontz's word "next". I remember that at the end of the lecture, we made eye contact and finished the slide presentation.

I actually participated in the Tweed International Course in April 1995. The photo is a party at that time. Dr. Merrifield was still alive, and Dr. Klontz and Dr. Vaden gave us strict guidance.

Also, when Dr. Klontz came to Nihon University, 1997 (during the late Prof. Shinkichi Namura's time), he examined my patient (a student at my alma mater) whom I had treated at the university and gave me advice. (Photo)

Later, in 2006, Dr. Klontz attended a trip to the Dept of Ortho, Nihon University in Atami, Japan, (during the late Prof. Noriyoshi Shimizu's time), where he invited me to come back again the Tweed course.

I took the Tweed course again in 2007 and received qualifications of Fellow at the meeting in Italy in 2008.

I remember that I was trying hard to keep up with the Courses that Dr. Klontz and his colleagues were always organizing. I was so excited to be invited to the meeting.

After that, I joined as an instructor, and stayed at Dr. Klontz's home in Oklahoma after the Great East Japan Earthquake in 2011 April. I accompanied him on the journey from Oklahoma to the foundation at Tucson, traveling a long distance in a large van.

It was a valuable experience for me to learn what Dr. Klontz had to share with us, not only about the course director, practice as an orthodontist, but also about the essence of education and beliefs. (Photo at Pre-Tucson)

Upon hearing the news of Dr. Klontz's passing, it seems as if it is like a big hole in our heart.

However, I am confident that the Tweed study course he left behind will continue and that Dr. Klontz's legacy will continue there.

Last but not least, I would like to express my sincere sympathies.



2017年頃 プレツーツンコース 連合会館

## 感謝と敬意をこめて — Klontz先生を偲んで

日本大学歯学部歯科矯正学講座  
馬谷原琴枝

私がTweed Study Courseを初めて受講したのは2008年のことでした。見たこともないほど大きなサボテンが広がるツーソンの風景に驚き、英語での講義や実習に戸惑いながらも、日本から参加した先生方と力を合わせてなんとかついていった、そんな懸命な日々の記憶が今も鮮明です。そのときのKlontz先生は、ワイヤーチェックでは細部まで丁寧に指導くださり、「他に問題はないか」と受講生一人ひとりを気遣ってくださいました。日本人インストラクターが不在だったこともあり、私たちの不安に常に寄り添ってくださったのだと思います。期間中はいつも受講生に気さくに声をかけられ、全体を見渡して些細なことにも的確に対応されるお姿が印象的でした。

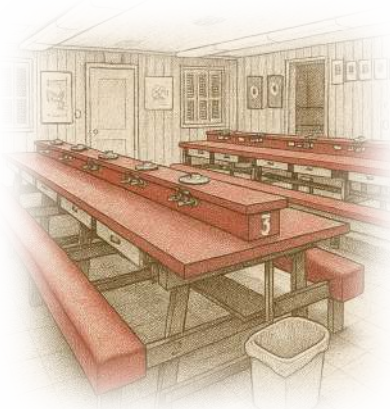
Tweed Courseに参加する前から日本で開催されるプレツーソンコースでお手伝いをしており、そのときにもKlontz先生とお会いしていました。しかし、現地でコースディレクターを務められているお姿を目の当たりにし、こんなに偉大な先生が毎年日本に足を運んでくださっていたことを実感いたしました。

その後、2014年には中久木先生のお計らいにより、インストラクターとして初めてコースに参加する機会をいただきました。技術的にも語学的にも大きな不安を抱えての参加でしたが、Klontz先生が「よくやった！」「またおいで」と声をかけてくださったとき、ようやく少だけ安堵することができたのを今でも覚えています。その後、2016年、2019年にもインストラクターとして参加させていただき、世界中の若い先生方と学び合う貴重な経験を積ませていただきました。多くの先生方と交流できたのも、Klontz先生、Vaden先生、そして送り出していただきました中久木先生、清水先生をはじめ日本Tweed研究会の先生方のおかげだと、心より感謝申し上げます。

毎年のプレツーソンコースやミーティングでは、Klontz先生の講義に耳を傾け、症例についての厳しくも温かいアドバイスをいただきました。学びの機会は尽きることなく、もっと長く続けばよいと願っておりましたが、2020年のパンデミックによりその機会は断たれ、ついに再びお会いすることはできませんでした。訃報に接したときは、大きな喪失感と驚きで言葉を失いました。真剣な眼差しで症例を見つめる姿、旅行や宴席での気さくで人情味あふれる笑顔、数々の思い出が胸に去来します。

偉大な先生を失ったことは深い悲しみですが、先生から教わったTweed philosophyの精神を次世代へ受け継ぎ、発展させていくことこそが、今私たちにできる最大の恩返しであり、より良い矯正歯科治療の提供につながると信じています。

Klontz先生、本当にありがとうございました。先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます



## In Gratitude and Remembrance — Honoring Dr. Klontz

Kotoe Mayahara

Nihon University School of Dentistry, Department of Orthodontics

My first experience with the Tweed Study Course was in 2008. I still vividly remember my amazement at the towering cacti of Tucson, a landscape I had never seen before. It was also my first time attending lectures and hands-on training entirely in English, which was both exciting and overwhelming. Alongside doctors from Japan, I did my best to keep up with the intense pace of the course. Dr. Klontz was there during that time, offering meticulous guidance during wire checks and always asking if there were any other concerns we had. Perhaps it was because there were no Japanese instructors that year, but his thoughtful attention and care meant a great deal to us. Throughout the course, he would walk around, casually engaging with participants, observing the overall atmosphere, and responding attentively to even the smallest issues. Before attending the course in Tucson, I had already had the opportunity to meet Dr. Klontz in Japan, where I helped with the Pre-Tucson Courses. However, seeing him serve as the course director in the U.S. made me realize just how significant his role truly was. I was deeply impressed that such a prominent figure had been visiting Japan every year to support us.

In 2014, thanks to Dr. Nakakuki, then-president of the Japan Tweed Orthodontic Society, I had the honor of participating as an instructor. At the time, I was overwhelmed with anxiety—both in terms of technical skill and language ability. The pressure was immense, but I still remember how relieved I felt when Dr. Klontz encouraged me with his words, “Good job!” and “Come again.” I had the privilege of returning as an instructor in 2016 and 2019, gaining invaluable experience teaching young orthodontists from around the world and forming meaningful connections within the global orthodontic community. I am deeply grateful to Dr. Klontz and Dr. Vaden for welcoming me, and to Dr. Nakakuki, Dr. Shimizu, and all the members of the Japan Tweed Society for their support.

Each year at the Pre-Tucson Courses and society meetings, I eagerly listened to Dr. Klontz’s lectures and appreciated his candid and insightful advice on clinical cases. I always looked forward to learning more and hoped that such opportunities would continue. Unfortunately, the COVID-19 pandemic in 2020 brought a halt to the Pre-Tucson Courses and made international travel difficult. I never imagined that would be the last time we’d have the chance to meet.

When I received the news of his passing, I was filled with a profound sense of loss. I can still clearly picture his serious gaze as he examined cases, and his warm, friendly demeanor during social gatherings and trips. His presence left a lasting impression on all of us.

The loss of such a remarkable teacher is deeply saddening. But I believe that by continuing to pass on the Tweed philosophy he taught us - its principles and its values - to the next generation, we can honor his legacy. Doing so will lead to better orthodontic treatment and ensure that his contributions live on.

Dr. Klontz, thank you from the bottom of my heart. I will never forget all that you taught us.

May you rest in peace.



第114回 Tweed Study Course June 1st-11th, 2014

## 追悼文

高橋矯正歯科医院 高橋滋樹

矯正歯科医としての私の形成に、大きな影響を与えてくださった先生方は何人かおられますが、その多くはツイードを通じて出会った方々です。クロンツ先生も、間違いなくそのお一人でした。

初めてお目にかかったのは、2002年のツーソンでのコースの際でした。医局の先輩である藤崎先生がインストラクターを務めるとのことで、私も同行させていただいたのですが、当時の私にとってクロンツ先生は、まさに「雲の上の存在」という印象でした。

その後、日本ツイード研究会のワークショップで、大学の先輩である稲毛先生から「うまくいかなかった症例を出せ」と言われ、提出したことがありました。これがいわば先生との“セカンドコンタクト”でした。その症例が「うまくいかなかったもの」であるという意図が、クロンツ先生にどこまで伝わっていたかはわかりませんが、ワークショップ中の公式なコメントに加え、懇親会の場でも「まあ、ああいうこともあるよ」と声をかけてくださったことが、今も印象に残っています。

その後、私がフェローのエグザミネーションに提出した症例を、日本の大会で展示していた際、クロンツ先生の目に留まり、「本国のミーティングで発表してみないか」とのお声がけをいただきました。これは私にとってはまさに大きな転機でした。その発表に向けて、なぜこの症例が評価されたのかを改めて考え、以前に現日本ツイード研究会会長の清水先生から同一の症例に対していただいたコメントにも向き合いながら、古い文献から最新の論文まで、かなりの資料に目を通しました。先生のおかげで、矯正治療の理解が格段に深まりました。

私はもともと、あまり前に出ることが得意なタイプではありません。周囲からは「もっとアピールしろ」と言われ戸惑うこともありましたが、本国での発表を経て、ようやくクロンツ先生に「高橋」という名前と顔を認識していただけたのではないかと考えています。

2014年の本国ミーティングで再び発表させていただいた際、バードン先生から「クロンツ先生が『高橋のグレートなケースがある』と言っていた」と伝えられたことも、心に深く刻まれています。

翌2015年、インストラクターとして本国コースに参加させていただいた際には、「私の英語力に不安がある」という前提のもと、先生は何かと気にかけてくださり、コース前半には頻りに様子を見に来てくださっていたように思います。コース中盤でのインストラクターディナーでは、部屋に入るやいなや笑顔で近づいてきて、「高橋はすごくよくやっている。まったく期待以上だ」と、皆の前でお褒めの言葉をくださいました。さらに他のインストラクターの方々も「何の問題もないと思う」と続けてくださり、「前評判が悪いと得だな」と思うとともに、とても安心しコース後半はリラックスして臨むことができました。

また、コロナ禍前の日本でのコース中、私が咳が止まらずに苦しんでいた際、「この薬は効くよ」と、わざわざ咳止めを手渡してくださったこともありました。

私とクロンツ先生との関わりは、基本的にはツイード関連の公式な場に限られていましたが、その限られた交流の中で、先生の優しさや心遣いを何度も感じました。そして、私が矯正歯科医として恥ずかしくない仕事をしていくための「基盤」を築く、かけがえのない機会と出会いを与えていただいたと、今改めて強く感じています。

気がつけば、私も歯科医師として30年を迎えました。クロンツ先生からいただいた数々のご恩を、今度は私が若い世代に還元していく番だと、心を新たにしています。

クロンツ先生のご冥福を、心よりお祈り申し上げます。



2008年イタリア大会の懇親会



2013年日本の大会の懇親会

## In Memory of Dr. Klontz

Shigeki Takahashi Takahashi orthodontic office

Several individuals have had a profound influence on my development as an orthodontist, many of whom I was fortunate to meet through the Tweed philosophy. Without a doubt, Dr. Klontz was one of those most impactful mentors.

I first met him in 2002, during the Tweed Course held in Tucson. I accompanied my senior colleague, Dr. Fujisaki, who was serving as an instructor. At the time, to me, Dr. Klontz seemed like a figure far above the clouds—an esteemed presence I could only admire from afar.

Later, at a workshop organized by the Japanese Tweed Orthodontic Association, my university senior, Dr. Inage, urged me to present a case that had not gone well. This marked what I would call my “second contact” with Dr. Klontz. I’m not sure to what extent he understood that it was a failed case, but I still remember vividly how, beyond offering official comments during the workshop, he kindly said to me at the party “Well, things like that happen.” That simple gesture left a lasting impression on me.

Some time afterward, a case I had submitted for the Fellowship Examination was on display at a conference in Japan, where it caught Dr. Klontz’s attention. He kindly invited me to present the case at the biennial meeting. That opportunity was truly a turning point in my career. Preparing for the presentation pushed me to reexamine why the case had been well received. I also revisited comments I had previously received on the same case from Dr. Shimizu—now President of the Japanese Tweed Orthodontic Association—and immersed myself in both classic and recent literature to deepen my understanding. Thanks to Dr. Klontz, my comprehension of orthodontic treatment grew substantially.

By nature, I am not someone who enjoys standing out. I often found myself at a loss when encouraged by others to promote myself more actively. However, after presenting at the meeting, I believe I was finally able to connect my face and name in Dr. Klontz’s mind.

When I presented again at the meeting in 2014, Dr. Vaden conveyed to me that Dr. Klontz had said, “Takahashi has a great case.” Those words have remained deeply etched in my heart.

In 2015, I was invited to join the Tweed Course as an instructor. Aware of my limited English skills, Dr. Klontz showed thoughtful concern and frequently came by to check on me during the first half of the course. At the instructor dinner midway through the course, he approached me with a warm smile and said in front of everyone, “Takahashi is doing an excellent job—far beyond expectations.” Other instructors followed with words of support such as, “I see no problem at all.” That moment brought me immense relief—and I even thought to myself, “Sometimes it helps to have a low reputation!” Thanks to their encouragement, I was able to approach the latter half of the course in a relaxed and confident manner.

I also recall an episode just before the COVID-19 pandemic, during a course in Japan. I was struggling with a persistent cough, and Dr. Klontz kindly handed me some medicine, saying, “This works well.” His quiet thoughtfulness never failed to shine through.

Although my interactions with Dr. Klontz were mostly limited to official Tweed-related occasions, I felt his kindness and attentiveness on many occasions. Reflecting on those memories now, I realize how invaluable those encounters were in helping me build a solid foundation—one that has enabled me to practice orthodontics with pride and integrity.

Time has passed, and I now find myself marking 30 years as an orthodontist. I am coming to realize that it is my turn to give back—to pass on the many gifts I received from Dr. Klontz to the next generation.

May Dr. Klontz rest in peace. I offer my heartfelt prayers in his memory.



2016年ツーソンTweed courseにて  
日本人受講生と



2016年ツーソンTweed courseパーティー

## Herbert Klontz先生へ

日本大学歯学部歯科矯正学講座 中嶋 昭

謹んでご逝去を悼み、生前の温かいご指導に対し、あらためてお礼申し上げます。先生にTweed courseで教えていただいたのは、1993年と2016年になります。大変お世話になりました。10年前および30年前の時の事も今でも懐かしく思い出します。

先生には、TucsonのTweed courseでお世話になっただけでなく、日本でのTweed course(Pre-Tucson course)でもお世話になりました。先生がいらっしゃるクラスは、いつも楽しく笑いで溢れていました。英語が得意ではなかった私ですが、先生の熱心なご指導のおかげでTweed mechanicsやphilosophyを学ぶことができ、今でも日常の臨床に先生のお考えやtechniqueを取り入れて患者様に喜ばれております。

先生のお優しい指導方法や素晴らしいTechniqueを先生のようににはできませんが、後進の育成に少しでも役に立てようと考えております。先生が、生徒たちと一緒にCourseでwire exerciseをお教えしていたお姿が、深く心に焼き付いています。

数年前、日本でのPre-Tucson courseでVaden先生に先生のお具合を伺ったところ、あまりよくない旨伺っておりましたので、大変心配をしておりました。この度の突然の訃報、いまだに信じられない思いです。今後は先生が私に教えてくださった「大切な心」を忘れることなく、日本の若い矯正医や本学学生たちにも伝えてまいりたいと思います。

Klontz先生のこれまでのお導きに心より感謝し、安らかに永遠の眠りにつかれる事を心よりお祈り申し上げます。

**Dear Dr. Herbert Klontz,**

Akira Nakajima Nihon University School of Dentistry

I am deeply saddened by your passing and would like to thank you again for the warm guidance you gave me during your lifetime.

I took your pleasure of course at the Tweed course in 1993 and 2016. I am very grateful for your great help, and I still remember fondly the times 10 and 30 years ago.

I have been a great help to you not only in the Tweed course in Tucson, but also in the Tweed course (Pre-Tucson course) in Japan. Your classes were always full of fun and laughter. I was not good at English, but thanks to your enthusiastic guidance, I was able to learn Tweed mechanics and philosophy, and even now I incorporate his ideas and techniques into my daily clinical practice to the delight of my patients.

Although I cannot be as good as your kind teaching methods and wonderful clinical technique, I am trying to be as helpful as possible in the training of younger students. I remember deeply in my mind how you are teaching wire exercise in the course with your students.

Several years ago, I asked Dr. Vaden about his condition at a pre-Tucson course in Japan, and I heard that he was not doing well, so I was very worried about you. I still cannot believe the news of your sudden passing. I will never forget the "important mind" that he taught me, and I would like to pass it on to young orthodontists and students in Japan.

I would like to express my sincere gratitude to Dr. Klontz for the guidance and pray that you will rest in peace and eternal rest.

Warmest regarding,



2016, March in Tweed course

## クロンツ先生を偲んで

日本大学歯学部歯科矯正学講座 納村泰弘

私の敬愛する恩師であるクロンツ先生の訃報に、深い悲しみを覚えています。先生は毎年アメリカから矯正歯科治療のTweed-Merrifieldテクニックを教えるために来日し、その重要さを教えてくれました。そして、英語のできない私にアメリカでインストラクターになるという機会を与えて下さいました。また、「教えるのは好きか?」と問いかけてくれたことを思い出し、先生の教える情熱が心に刻まれております。先生の惜しみない寛大さ、他者への信頼、それらは決して忘れられることはありません。私に与えてくれた導きに、心より感謝申し上げます。そして、ご冥福をお祈りいたします。

### In Loving Memory of Dr. Klontz

Yasuhiro Namura Nihon University School of Dentistry, Department of Orthodontics

I am deeply saddened by the passing of my beloved mentor, who traveled from the United States to Japan every year to share the invaluable principles of the Tweed-Merrifield technique. Through his dedication and teaching, he conveyed not only the technical precision of the method but also the importance of passion in education.

I will never forget how he encouraged me—despite my limited English—and gave me the opportunity to become an instructor in the United States. That experience changed my life. I still remember the day he asked me, “Do you love to teach?” That simple question has stayed with me ever since. It reminded me that true teaching comes from the heart—a spirit he embodied so fully.

His unwavering commitment to education, his generosity, and his faith in others will never be forgotten. I am forever grateful for the guidance he gave me and the doors he opened. May his soul rest in peace.



2015年4月1日 Tucson Study Course

## 親愛なるクロンツ先生へ

矯正歯科 エンジェルースマイル歯科 半澤純子

Tweed Study Course、Tweed-Merrifield philosophyに出会えたことは、私の矯正歯科医師人生においてとても意味のあることになりました。とても素晴らしい変化です。

その教えを長きにわたりご指導して頂いたことに深く感謝いたします。

クロンツ先生の講演やワイヤーベンディングのデモンストレーションは忘れません。

先生はいつも笑顔で誠実に献身的に熱意のある説明でした。

とても感謝しております。

心から本当にありがとうございました。

どうか安らかに眠りください。

**Dear Dr. Klontz**

Junko Hanzawa Angel-Smile Orthodontic Office

Meeting the Tweed Study Course and the Tweed-Merrifield philosophy has been a truly meaningful in my life as an orthodontist. It is a wonderful transformation.

I am deeply grateful for the many years of your guidance in these teachings.

I will never forget Dr. Klontz's lectures and demonstrations of wire bending.

You always taught us enthusiastically.

I really appreciate it.

Thank you very much for everything

May you rest in peace.



2017年10月29日  
第12回総会学術大会 懇親会場

## クロンツ先生の笑顔に励まされて

大宮こかい矯正歯科 小海 暁

私が初めてTweed Study Courseのためにツーソンを訪れたのは、2015年6月のことでした。当時の私は、ワイヤーベンディングにも英語にもあまり自信がなく、大きな不安と緊張を抱えてコースに向かったことを、今でもはっきりと覚えています。

そんな私に、クロンツ先生は常に温かく接してくださいました。ワイヤーをチェックしてくださる際には、いつも笑顔で「Your wire is very good」とおっしゃって励ましてくださり、そのひと言ひと言がどれほど心強かったか、言葉では言い尽くせません。

Biennial Meetingsで症例をご覧いただいたときも、「Your case is very good」と優しく声をかけていただきました。それまでの私は、Tweed philosophyとは異なったアプローチで治療を行っていたため、クロンツ先生に認めていただけたことは、大きな驚きとともに深い感動を覚える出来事でした。

クロンツ先生の温かなお人柄、矯正治療にかける情熱、そして教育に対する真摯な姿勢に、私は深く感銘を受けました。その精神の一端でも引き継ぎ、日々の臨床と後進の育成に努めていければと、あらためて心に誓っております。

先生のご遺徳を偲び、心より感謝申し上げます。どうか安らかにお眠りください。

## Encouraged by Dr. Klontz's Smile

Satoshi Kokai Omiya Kokai Orthodontic Office

I first visited Tucson in June 2015 to attend the Tweed Study Course.

At the time, I lacked confidence in both wire bending and English, and I still vividly remember heading into the course filled with anxiety and nervousness.

Dr. Klontz was always warm and kind to someone like me. When he checked my wire, he would always encourage me with a smile, saying, "Your wire is very good." Those simple words, spoken with such warmth, gave me immeasurable strength and encouragement.

When he reviewed my case at the Biennial Meeting, he also kindly said, "Your case is very good." Up until then, I had been practicing with an approach quite different from the Tweed philosophy, so being recognized by Dr. Klontz was both a great surprise and a deeply moving experience.

I was profoundly inspired by Dr. Klontz's warmth, his passion for orthodontics, and his sincere dedication to education. I have since vowed to carry on even a small part of that spirit in my own clinical practice and in nurturing the next generation.

In remembrance of Dr. Klontz's legacy, I offer my heartfelt gratitude.

May he rest peacefully.



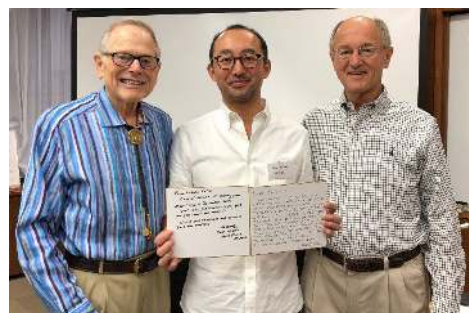
2013年6月25日 Pre-Tucsonコース



2015年6月10日Tweed Study コース



2017年9月17日 Tweed Study コース



2019年10月23日 Pre-Tucsonコース

## 多くの教え子たちと共に

ささき矯正歯科 内田喜昭

2012年秋のプレツーソンコースで私はクロンツ先生と出会いました。歯科矯正学を学び始めて数年の私はワイヤーベンディングも下手で硬いワイヤーに指を痛くしていましたが、「Nice wire, good luck」と褒めて頂き、励まされました。またTucsonのコースで玄関の鐘を鳴らしながら「午後の講義が始まるよ、急いで急いで！」と笑顔で声をかけ、いつでも生徒を褒める姿が印象的でした。その温かい笑顔に世界各国から来た多くの生徒が見守られ、歯科矯正の楽しさを学んだことでしょう。我々Tweedメンバーは、先生の教えていただいた信念を受け継ぎ、新しい矯正医を育て、たくさんのお患者さんを笑顔に変えていくことを誓います。安らかに眠りください。

## A great teacher with many students

Yoshiaki Uchida Sasaki Orthodontic Clinic

I first met Dr. Klontz in the fall of 2012 during the Pre-Tucson Course. At that time, I had only been studying orthodontics for a few years. I was still struggling with wire bending, and the stiff wires would often hurt my fingers. Yet Dr. Klontz encouraged me with kind words, saying, "Nice wire, good luck." I still remember how much that lifted my spirits.

During the Tucson course, he would ring the bell at the entrance with a smile and say, "Afternoon lecture is starting—hurry, hurry!" He always made a point to praise his students, and that warmth left a lasting impression on me.

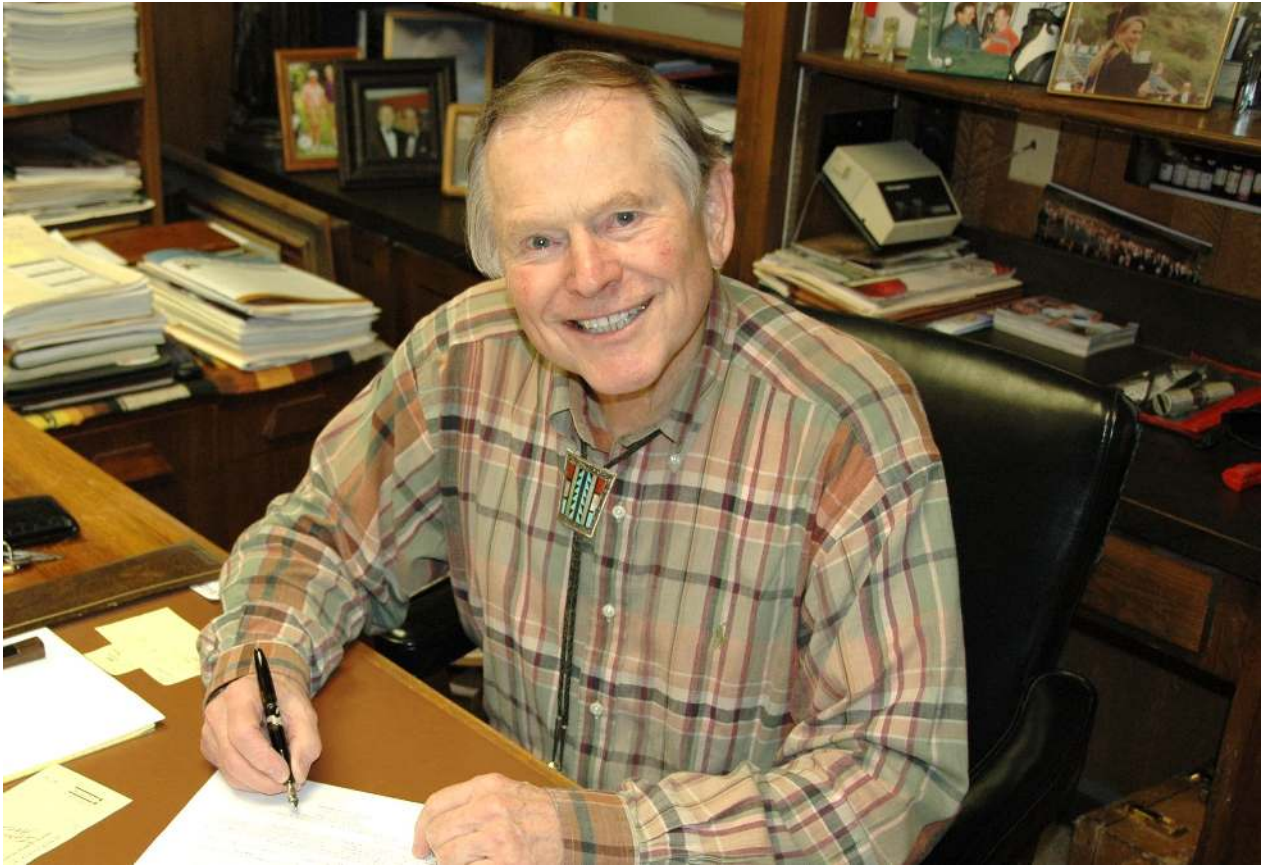
Surrounded by his kind smile, students from all over the world found encouragement and joy in learning orthodontics. We, the Tweed members, will carry on the principles he taught us. We pledge to pass them on to future orthodontists and continue bringing smiles to the faces of many patients. May you rest in peace.



2012年Pre-Tucsonコース



2023年Tweed Course



2012年 オクラホマシティの矯正歯科オフィス

クロンツ先生、30年以上に渡って我々をご指導いただきありがとうございました。先生からご指導いただいた歯科矯正学の理念は一生の宝として持ち続け、次の世代に受け継いでまいります。

先生のご冥福をお祈り申し上げます

日本Tweed矯正歯科研究会理事・インストラクター 一同



日本Tweed矯正歯科研究会30周年記念誌

発刊 2025年11月

発行 日本Tweed矯正歯科研究会

編集 清水典佳

藤崎臣弘

野間秀郎



